



本草圖譜



本草圖譜

時 1 - 278

本草圖譜卷之五十三目錄

菜部 蔬菜類



冬 氏	かとう	一	一種	ちかき	二
南 氏	なん	四	一種		五
一種	しん		一種	しん	六
一種	ふん	七	越 氏	あき	七
一種	しん		一種	しん	九
一種	あき	十	一種	しん	十一

胡	此	十二	一種	五
絲	此	十四	一種	五
一種		十五	天羅勤	不詳
苦	此		一種	五
一種		十七		

本草圖譜卷之五十三

東都 岩崎 常正 著

采部 歲采類



200

任法

東 瓜 圖三才

鼓雅道

蔬 菰 藟

春日實生下_レ生以苗蔓壹_ニ壹_ニ似_テ肥大花五瓣黃色
實の形_ハ如_ク肉厚_ク外皮_ハ白粉_ニ白毛_{アリ}其_ハ熟_{スル}
食_ハ味_ハ淡薄_{ナリ}此瓜_ハ疵_{アリ}子_ハ擇_ミ去_ル藏_ス
以_テ冬_ニ食_ス



一種



之稍大者長二三尺
 外白色
 白毛や味は圓
 ちふふと同一

あかきり

筑後柳川に産す
 脚皆長く越えり



南瓜

なぐち

本邦ふ来る度慶長元和年中より西瓜より早く来る京都
 少延室天和年中より初て種を栽其前より名ありと大和
 本草より云う春月実を下し生ひ葉の冬瓜に似て大に
 五七の丈ありて面背より毛刺多し延蔓数丈花は白
 黄色黄野梨に似て花は白大なり花の下より実を結み
 田大なり形飽満の如くさきものなり一尺余皮綠色に
 し淡緑の斑あり頗る蝦蟇の斑に似たり又四角上下
 狭く壺の形に如き物なり又形長くて葉瓜の如く縁
 色あり多し田村氏肥後八代郡の産に田より大なる
 西瓜より云う此三種よりなるものと云皮は綠色
 熟して黄色に味は淡薄なり甘味は薄皮より
 乾し野へ菜とし又筑後より煮し砂糖を点し大
 豆粉を衣とす菓子とす

三



一種



一種



瓜瓞

瓜瓞

番南瓜

諸芳

苗葉形狀 前條亦同 實の形壺の如く 下溜く 上狭く
 又曰く 扁き瓜なり 其の皮 堅く 西に凸く 東に凹く
 其の皮色 黄なり 肉厚く 味は 甘く 濃
 美なり 此類 瓜の如く 形状 同く 小なり



南瓜



一種

南瓜 瓜 一



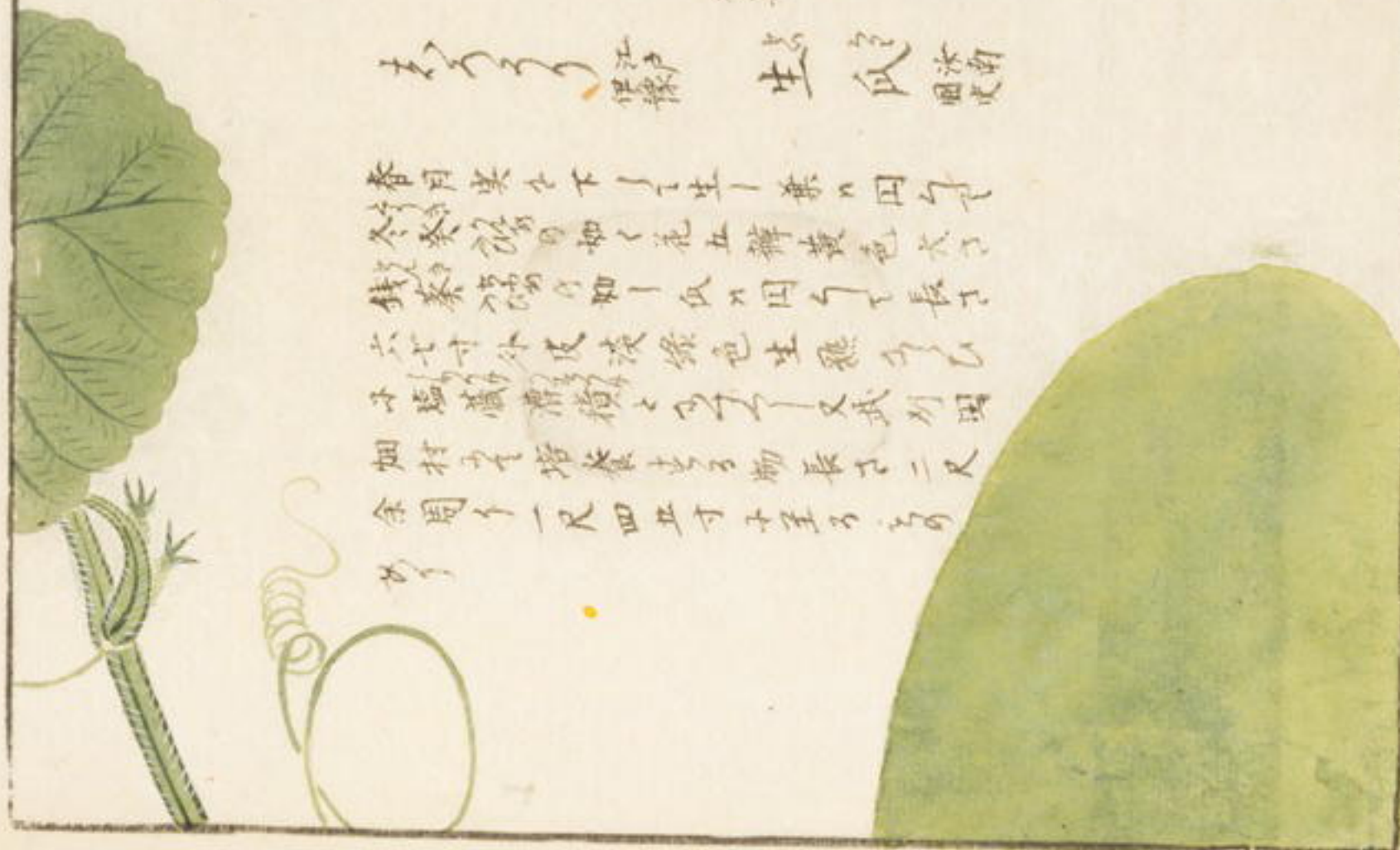
越瓜

あさうす 大母本草

あさうす 江戸伊豫 生瓜 南史

春月実を下し生一葉の四寸
 冬寒詠の如く花五瓣黄色大さ
 錢葉の如く瓜の四寸長さ
 六七寸外皮淡綠色生熟うす
 子塩蔵漬物とす又武列田
 畑村に培養する物長さ二尺
 余周く一尺四寸子至る

あさうす



一 種

モロヘニ



形状相似て瓜稍
 少くして色白色を
 帯ひ毛茸あり此
 り塩蔵するに汝
 南園史云白色者
 色類腐熟するに
 なるなり



一種

醬瓜 食物 本草

つげり 大和 本草
もろけ

大和本草云越瓜の皮薄く
菜瓜の皮厚くつげり苗葉
形状越瓜に似て瓜の形越瓜
より細くつげり皮深緑色硬
し此物と塩蔵し菜といふ





形状多くつるに似て
 其瓜深緑色に黄斑あり
 淡黄色の斑道あり
 味ひきつるに似
 同く水南園史云
 田舎に似たり

一種

瓜名





形状多々
同く
其瓜小く
聚路の鈴の如く
深緑に淡黄色
の同通斑紋あり
味は多々
同く



胡瓜
うり
和名

うり

刺瓜 通志 金瓜 便覽

生瓜 同上 玉瓜 金書

白露 録 黃瓜 北

うり

春月種を下し生以葉冬瓜に似て花數瓜の如く瓜の
頭尾齊しく生み綠色外皮に花あり、瓠葉の背に似て
小刺あり、熟するに金黃色生又塩藏する

一種

うり

早王瓜 淮南

田村瓜九列及び大和信列甲列奥列に産し、ツノ形
狀前條に似て長七八九寸黃白色なり此も味は佳
し此瓜を生ずる處に蔵め日を経れば水となり此物火
傷湯瀉に奇切なり

絲瓜

へちま

ひちま

ちひま

瓞

栲線絲瓜種

天羅紫

新芳

春月種を下し生ひ蔓延し竹木に付て葉の胡瓜
 葉子似て五七枚あり花の壺蓋の如く似て小く黄色一
 重は横に裂け実の壺蓋の如く似て長さ二尺余皮の中肉の
 く絲あり無きものあり及て綠色瓜の小なる時塩蔵し食
 べ或は味増を煮し麴り食ひ又麴りて酒を造る米洗水
 へ浸し皮肉をこし麴の皮に入れて又物を洗ふやちわ
 八月の望の夕ふ根の上を一尺餘を切瓶の中へ搾み置
 け水出ら此をてちまの水とりて此を所方子絲瓜汁と云
 うもの皮を用て功あり



一種

あまのつらま

天保十年小石
川の管園中子
率常のつらま
うゝ葉生以丈
葉田のつらま

之葉積葉の如く花実の
率常のつらまと同



一種

あまのつらま

うゝつらま

薩州盆後肥前肥後すうのつらま形状
葉此のつらま同く葉の根葉のつらま
又深く根の長さ甚しき物ハ五六尺子
及ハ時珍記ハ甚則三四尺と云ふ





四月種を下して生ひ蔓延し葉ハ七九尖ちう條瓜に
似て又深く花黄色甜瓜の如し花の下に実を結ぶ同
うて長く兩頭尖うて長さ三寸許り皮厚うて外は花
の如く蠟の散り如く嫩うて時煮て食ふ又一處藏
こもるうて味は微し若し熟せば黄色頭自ら裂て
実露る実子深紅色の肉を紫しうて腐し味は甘し
実ハ黄色うて蟹の甲に似て小なり



一種
苦
瓜



形狀前不同し実肥
大長一尺余あり

一種

キエミス



物印忙子載る所の物二種あり一種は四角で肉刺あり
 一種は正四角で大きく丸くあり佛頭り如き物花は黄色
 して若くは同



本草圖譜 卷之五十四 目錄

菜部 水菜類

紫菜	ひさまきのり	二	一種	うづき
一種	下たけのり	三	一種	山鹿のあまのり
一種	甲佐のり		一種	菊池のり
一種	越後のり	四	一種	みさきのり
一種	越前の黒のり		一種	永前寺のり
一種	まゐのり	五	一種	九州のり

一種	うの	一種	多摩川の
一種	網津川の 六	一種	波のまの
一種	寒の	一種	寒の
一種	りふの 七	一種	りふの
一種	夫部の	一種	おまの
一種	おまの 八	一種	むの
一種	むの	一種	八景の 九
一種	うの	一種	うの

一種	うの	一種	おまの 十
一種	おまの	一種	清水の
一種	志の	石蓴	あまの 十一
石花菜	うの 十二	一種	うの
一種	五分の 十三	一種	まの
一種	まの	一種	とらの
一種	ふの 十四	一種	ふの
一種	ふの	一種	うの

一種	一種
一種	一種
鹿角菜 づのまゝ 十六	龍鬚菜 づのまゝ
一種	腫菜 づのまゝ 十九
一種	

本草圖譜卷之五十四

東都 岩崎常正 著

菜部 水菜類

紫菜 ひぐさみのり 和名 のり あまのり 抄漢語

葛西のり あまのり 品川のり

武州品川大森の海中ふ秋の枝の生る。枝を走つ形藩籬の如くあり其中一冬月ふ在りの影を怪民に生る。四方へ出へえたも貴くや紙の如くも乾く賣用は生る。時緑色乾くも紫色ふる。此物諸國ともあう形色氣味大同小異や。枚挙をくは品川の産を上品といふ

一種 うつろいのり 三種

大和本草云雲州の十六島に皆紫菜の類うつろいとい海中の苔や露もがちないて乾く故ふ名つとより形状細く糸の如く長さ二三尺ある。其中廣く一寸位ををる。うつろい其下品なるをひぐさのりといふ

ひぐさみのり



三種 いろは



一種 下たけのり
肥後の産
楠本氏
の藏圖



一種
山鹿の
なまのり
肥後の
産
同圖



一種

田佐のり 肥後の産

楠本氏

の藏圖



一種 菊池のり

同産同圖



一種

越後のり



一種 みさきのり

濃紫のり

光華のり

紅のり

三色のり

裂のり



一種

越前の黒のり



一種

水前寺のり

肥後の産
至て厚く
板の如く切
て食ひ



長門の
ろまん



一種

まゝのり
のり

勢州の産
形状細く
を二層に
縦横に並
べて置く



一種

九州のり



一種 芋のり

甲州境
湖水子
産



一種

武州多摩川の

武州多摩
川
製塩気
少味
おも
似



一種

細津川の
肥後の
産

楠本氏の
蔵
灰子
製
り



一種

又 波のま
翠雲花

同産
同圖



一種

寒のり



此後産

一可の沖

云恒一日

一夜水漬

置

と

樹木式

日藏圖

一種

寒のり

同産

同園

兩三日水

子置

と

と



一種

りふ

ちまのり



一種

りふ

ちまのり



一種

矢部のり

肥後の産

楠本氏

の蔵圖



一種 なまのり



一種 なまのり

廣く六七分或は七八分長く五分厚く
頗る厚く食ては葉色は赤く花は白

曝し置くと変じて黄白色となる



石花菜 いそぐさ 和名 あるも 本朝 むし 上同

とろろ 子 瓊枝 新語

海中の石上は生ひ一葉散生し長二三寸形石花菜の如く細くして枝多く生る時青白色或紅色の或は紫色を帯るものなり乾く時白色を帯る此を水に泡し砂を去り湯に火を煮るまじふ糊の如く此を器に入れ水に泡し凍結し為弱の如く透るものなり明くは時珍食物本草云瓊脂此瓊脂を曝乾紙の如くなる俗に乾いといふ或は紅を紅いともいふ

一種 ふの 和名

石花菜は形状同く生る處も又同く大和本草に處々の海濱の石の上で生ひたるをいふものなり食其味甘く其大を水に洗ひ干し貯て煮て糊と紙とに用ひ民用多し又火を煮て粉漆と和し紙をつま合はる用也と云

一種

むし の 肥後の産

楠本氏の藏圖



一種

むし の



松前の産

石花菜

同



一種

松前

の産



一種

同産



一種

いれり 松前の産



一種

いれり

同産



一種

五分り

肥後の産
楠木氏の
蔵圖

郡浦の
海草
もふり



一種

もふり

肥後の産
同圖



一種

まふり

肥後の産
同圖



一種

いさかの^{和名}

雞冠菜^{上同}

鳥坂^{本朝式}

肥後赤瀬の産之大和本草
其形雞冠の如く食べし紅色
石上生ひしる本朝食鑑
狀雞冠の如くやう小齒に
刻みし赤紅色味し美なり淡
味なり食ひしるまゝ海濱
石上生ひ古者参河伊勢志摩紀
伊石見本の洲民都省は真獻
亦處に多く生ひしる



一種

よかま^り

肥後^産



一種

よかま^り

同産



一種
清水のり



肥後
上藤川
産の
紙
を
但
茶
よ
り
別
色
う
も
う
楠
本
氏
の
裁
圖

一種 生のり



同國
肥後
椿原
八幡宮
安子山
ふ
ま
山
ま
木
の
類



龍鬚菜

ちくし
肥後の
産



一種 北國の産



麒麟菜

直京通志

一種

ふしけのみ
松前の産



一種

ふしけのみ
同産



一種

ふくろ
のみ
松前の
産



一種

ふくろ
同産



鹿角菜

つのも 大和本草 用候菜 本朝式
青角菜 東鑑

大和本草は其形鹿角に似て小へ海中岩間に生り乾く收り用むる時
水に浸し醋を和し食ふなり本朝食鑑は其形鹿角の状に似て蒼灰色
乾くも則ち黒色鹿尾菜の如く味も亦佳なりなり田村氏肥後薩
摩大隅の海中に甚多し長さもの七寸短きもの三四寸生る時黄白
色乾くもの紫褐色へ小枝を分ち鹿の角の形の如く相州鎌倉の海
中にも生る者煮て糊を煮るなり同く古く古人もさるものなり鹿角
菜は元々蘭山に生るものなりを以て之を充つ二説皆非なり

鹿角菜



石蓴

あもぎ

紙菜 廣東新嘉

海中、其の形状、紙の如く、大者、一尺許り、色、浅緑色、又、國々、食料に
 波、随つて、自ら、海頭、集る、一日、を、経て、腐爛、する、を、國々、食料に

八

石 蓴



大和本草云王氏軍花云曰生海中石上莖如繒長僅尺許色始青居人取
之沃於水乃白又名繒菜人頗珍之今按繒前云白繒云細絲如
繒青白水浸之白者煮食一或水浸之煮食之食之
潔白之云若水曰又北土及他州亦有之

腫米

江戶 1796 乙酉 丁酉

25 - 50 - 100

13524

۱۳۰۰

武州多摩郡井の頭邊其外諸國水澤にあり春宿根より生ひ一茎
三葉形半夏に似て大に春月茎を抽して末は穂をかく五辨の白根を
開く花辨の周りに毛にうて苦菜に似る根頗る洋蓬草の根に
似て第に病を因て疲るよりあるものは此根を煎服すると能睡む
因て睡菜の名にう



一種 (二) 一



水邊岩石の前も生け春月
宿根も生け積雪草にふ
似て厚く夏月茎を抽して
花は白色やしく形も睡菜
と同一根又睡菜の如し

本草圖譜卷之五十九目錄

菜部 芝栢類

芝	レイシタケ 一	赤芝	
青芝	三	黄芝	
白芝	四	黒芝	
紫芝	五	吳唐草集 詳ナラヌ	
獨搖芝 同	天麻ニテ山草部ニ出ス	木渠芝 同	
牛角芝 同	六	菌芝 同	

黒雲芝 同

七

肉芝 同

昇龍芝 同

木耳 きくらげ

八

桑耳

くわきくらげ

九

ニロトコノキくらげ

杉菌

スキタケ

十

同

十一

スキネロシ

クワタケ

十二

同

カウヅタケ

十三

エノキタケ

ムクエノキタケ

十四

クルミタケ

同

十五

クリタケ

類 カワリクリタケ

同

同

十六

同

同

ソコゴタケ

ムメタケ

同

十七

同

サクラタケ

ヤケタケ

カキタケ

十八

同

ハシノキタケ

十九

才直圖記 卷之五十五 目錄 二 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

本草圖譜卷之五十五

東都 岩崎常正 著

来部 芝栢類

卷一百一十五

芝

玉芝記本

セイシタラ

マシ子ニタラ部

サイワイタラ京

キナシヤウタラ部

カドデタラ波

ヤマノカミノシヤクシ部

マコシヤクシ奥

子コノシヤクシ東

靈芝本草

三秀楚

科名草群芳譜

茵春蠶上

紫脫齊

要術

瑤草詩江淹

此物人家山野共ニ樹ノ下朽根ニ因テ生スルモノ多シ如ノ一茎ヲ
生シ形状筆ノ頭ノ如ク摘ク蓋ヲ生シ靈頭ノ如ク小ナルハ

教ス大ナルハ欠ニ及フ全株漆ノ如ク光澤アリ年ヲ経レドモ朽ス
茎蓋ノ側ニ着ク物アリ又蓋ノ中ニ着クモアリ形状一ナラス集
解ニ説ク履ノ形状数百種アリトイヘドモ未タ目撃セザル物又
先輩同寮ノ圖説アレサル物ハ載ルアタハサレハ同セス尚後ノ考ヲ
マツ其變態極メ盡スヘカフサル物ハ此物久シク野ニ生ナルヲ觀テ
漸ク益シテ教日風乾エドモ腐朽セス久シキニ絶斯ヤサレハ虫ノ
食ヲ免アタリス其色ニ至テハ紫色ノ物多ク黒色ノ物ハ紫色ノ濃チ
ナリ赤色ノモノマタアリ黃色ノモノハ赤色ノ淡キモノナリ青色ノモノ
ハ紫色ノ色淡キモノナリ白色ノモノハ至テ稀ナリ

赤芝

此品正赤、物
稀ナリ黄色ヲ
帯ル物多シ



青 芝

紫 芝 ノ 類ニ
シテ 赤ミナク
青 色 ナル 物



黄 芝

赤ミナク 正 黄ノ
物 稀ニシテ 赤 色
ヲ 帯ルモノ多シ



白 芝

此 物 稀 品ナリ
江 戸 河 尻 家ニ
珍 藏スルモノアリ
形 状 前 條ニ 同シ
クシテ 其 色 正 白
ナリ



黑芝

紫色
濃



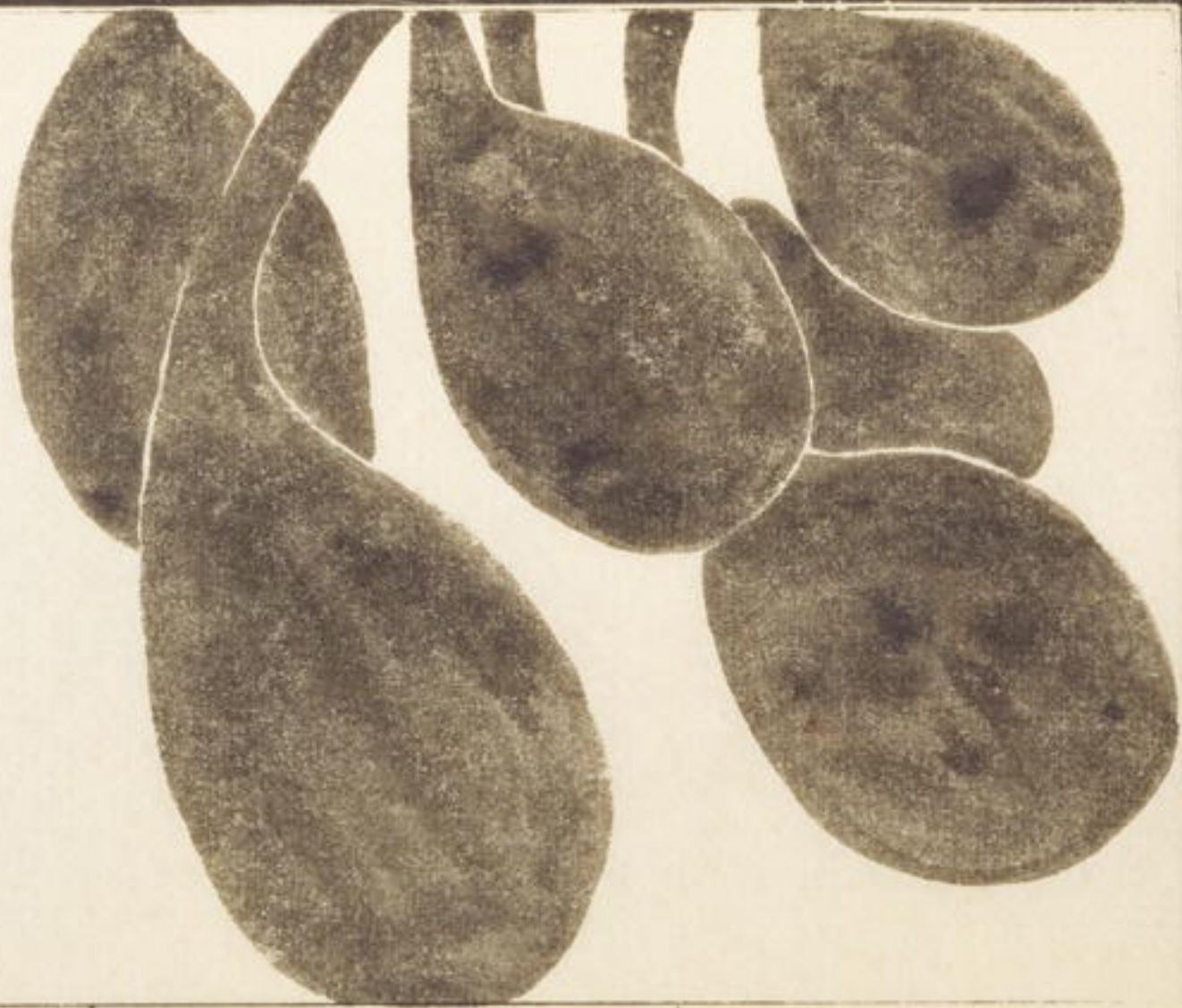
紫芝

信陽蘭譜
載此
品至多



木渠芝解

此物東嶽山坊中維摩院權僧正師
 珍藏スル物（其形狀根ノ履一握リ
 ノ大サニシテ一莖數枝ヲ分テ衆生シ
 長サ二尺許リ莖ノ頭毎ニ平キ益ヤ
 リ其益ト莖ト直ニ着クコト杓子ノ
 如シ餘ノ芝ノ傘狀ヲナスニ異ナレリ色
 紫黒色ニシテ全體光澤アリテ漆ヲ
 塗カ如シ奇品ト云ヘシ泉解ノ木渠子
 ノ類ナリ



牛角芝 解集

柿本氏藏スル
可ノ圖ニテ無
花果イハレ根ニ
生ストイヘリ



蘭芝 解集

蘭史ニ載スル處ノ圖同
書ニ耳クサクストイ、武嘉
深川浄心寺ニ生スト云フ



黒雲芝 解集

武嘉道灌山
ニ生スルモノ



肉芝 解集

柿本氏藏スル處ノ圖
夏至ノ頃山抱子ノ根
ヨリ生シ始雪白後真
黄ニ変ストイヘリ



昇龍芝

捕本氏藏スル
野ノ岡高田
山尾崎候御亭
中三軒家西ノ山
岸ニ産スル湖ニ
シテ食シテ毒
ナリトイヘリ



木耳

キクラゲ

此條ハ諸木ニ生シテ其形状耳ノ如シ又海月ノ如ク故ニ木耳木海月ノ
名アリ集解ニ木耳各木皆生其良毒亦隨木性不可不審今貨者
亦多雜木トイヘリ本邦ニモ木ノ性ニ因テ毒物アレハ宜ク擇フヘシ並ツテ
蓋ヲ生シ傘状ヲナスモノハ菌又蕈ナリ此條ニ入ヘカラス

桑耳

クワノミ、ハ交
方音

クワノキクラゲ

桑驚 事物
相珠

桑樹ノ枯朽スル處ニ生スルキクラゲナリ故名ノ桑黃桑臣桑上寄生ノ三
名ハ一物ニシテサレノコレカ附方ニ桑黃蕈証類本草ニ木麥トイヘリ肥
前ニテヌレマコツト云ハ交葛ヨリ多ク出ツ此ヲ藥店ニテ桑寄生ト稱シ
賣ハ非ナリ桑樹ニ生スルエエ殺敵遠カラストイヘトモ性負大ニ異ナリ
真ノ桑寄生ハ桑樹ニ生スルトヒサ、ニシテ菌類ニアラス

槐耳

エシロニ生スルキクラゲ之菌史ニ色赤黒味ト美トイヘリ

榆耳

ニレニ生スルキクラケニ

皇和草譜ニ通雅ニ云邊上有榆肉畧今消商乾蔬ヲ長崎ニ
齎シ来リ以テ食料トナス其形狀接骨木ニ似ノ木耳ニ似テ肉厚
色紫褐食ヒ美ナリトイヘリ

柳耳

ヤナギニ生スルキクラケニ

石耳

ヤマクワニ生スルキクラケニ

楊摠耳

ヤマウツギニ生スルキクラケニ

以上五木ノ外本邦ニモ諸木ニ生スルトイヘドモ專ラ接骨木ニ生スル
木クラケヲ以テ取上トス味ヒ尤モ勝レリ

桑耳

クワノキクラケ

菌史ニ載ル

處ノ國

接骨木

ノキクラケ

同書ニ

載ル所

ノ國



蘭 草 々々 又キノコ

此條ハ本竹山野濕處共ニ生スル處ノ蘭類ノ類ヲ圖ス此ニ挙ゲ
物ハ十カニシテ其數盡スヘカラス國ニヨリ風土ニヨリテ其名同
クシテ其形色同シカラス又味トモ然リコニ恐ルヘキハ毒蘭ナリ
食料ノ物ト其形色同クシテ毒アルモノアルハ宜ク山野ノ村老ニ因テ
其有毒無毒擇リ給ヘキ物ニ集解ニモ毒物ヲ分ツノ法ヲ説亦古今トモ
ニ云ヘル所ハ夜中光アル物晨ニ生シテ夕ヘニ萎ム物日ヲ見形ヲ変ス
シ又消ル物毒本ニ生スルモノ穢土ニ生スル物味ト苦キ物又辛キ物莖
ニ節アルモノ莖ノ剥サレ物裏ニ刺ナキ物形異ナル物其外色ノ変ス
ルモノ等入テ害ス擇リテ食用ニ供スベキモノハ初夏ヨリ初秋ニ生ス
ノハ夏クハ毒アリ中秋ヨリ春時ニ生スルハ毒物ナシ唯毒本ヲ擇ヘキ
一毒草ヲ食シテ毒ヲ解スルノ法藏器並ニ時珍ノ説ニ地漿取服ニ盡
大奇取ニ地漿ニ法先握黃土地深三尺入清水數升攪濁而取其清

又藏器久ハ瓜生摘取其汁服ニ盡亦良イヘリ皇和草諸ニ擇皮五
錢細ニ剉テ水煎シ類々コレヲ服スルハ愈工梓ハカハナリ信和草々
最モ多シ土人此皮ヲ用テ大炬ヲナス又擇ノ皮五錢細剉水煎シ
辱服スマタ妙又紫茄核或ハ茄子五錢水煎シ服スル亦良イ若
蒼白蓉新水ニ勻併咽之立テ愈サルハ陳壁ノ土ヲ熱湯ニ和シ白
澄シ冷テ飲亦生荷葉五錢水煎シ服シ或ハ搗爛シ汁ヲ取服ル大ニ
佳亦茶ノ芽ヲ未ト為シ新キ汚水ニテ服タス晚茶マタ良トイヘリ此
外諸書ニ解毒ノ法アレドモ畧ス

一此前後ニ出ス處ノ蘭類目撃ナス物信陽蘭譜並ニ日光蘭譜ニ
載ル圖又蘭史ニ載ル圖此蘭史ト称スル物ハ増島氏ノ藏書ニ
此蘭史ニ引所ノ書省過鹿物類纂茶產物寫生蘭品毛蘭圖蒙
氏等ノ書ナリ外ニ楠本氏ノ藏圖ヲ得テ寫スル品アリ此外諸家ノ
圖コレアルベケレドモ得サレハ寫スル能リス尚後入此餘ヲ補ハレコトヲ
待ツ圖ノ本ニ書名ヲ記シ記サル物ハ自ラ得處ノ物ナリ

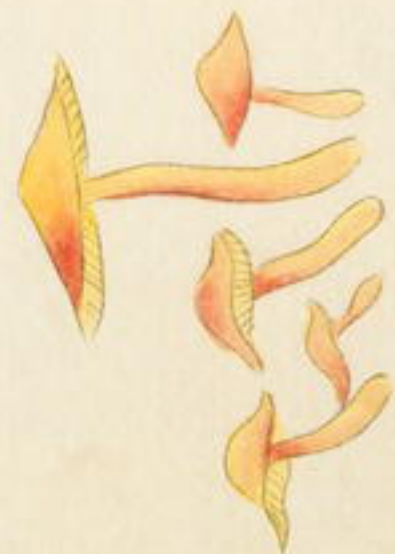
杉菌 スキタケ

菌穴ニ載ル處ノ陶ニ同書ニ並瘦テ
 長ク微大ニシテ甚シクハ上ニ微ニ大
 リ面ト並皆醬色大ハ厚ノ微ニ黒色
 ラ帶フ柄黄白又茎淡黄下微ニ黒者
 アリ益至皆黄白或ハ灰白ノ者山中
 老杉ノ根及ク朽採ノ上ニ叢生ス和滑
 鮮美杉ノ氣アリ香味梅タケト殆相
 頡頏ニトイヘリ

スキタケ
 省過ニ載
 ル所ノ圖



スキタケ
 毛菌圖ニ
 載ル處。



スキ不ホ心

蘭火三載
處、圖同書
武而萬澤
山妙泉寺三
スーイ一リ



白英草 まいからもち 泉

まからち ちまな 秋田

此物圖を不載皇和草譜の形糖草と
以て色白く満ちて愈皎白大なるを經う寺
許り或ハ云味佳なるものと云



クワタケ

信陽菌譜ニ載ル國之
同書ニ漢美上品ニト云
リ皇和菌譜ニ陸寒凝
斯ノ時柔ノ木株ノ上
ニ菌花ヲ生ス寒ノ柯
草ニ似テ味甚甘美ト
イヘリ吳草譜ニ紫草
紫色亦有黃色者形
如香草中ノ人語云食之
明目諺云服之解毒ト
イヘリ



カフゾクサビウ

カウゾタケ

穀樹草 吳草

菌史ニ載ルキノ同書ニカソノ
樹上リ夏秋ノ間最盛ニイタケ
ニ似テ頂癭微張シテ寸餘ニ過ス
而ト莖ト栗殻色底深褐卵色
如ク又黃褐白褐ノモノアリ柔脆
解美烈日ニ晒シエテ食フ尤妙
諸品ノ間ニ有レトモ大和郡産スル
モノ美ナルニシカストイヘリ信陽
菌譜ニカソタケハ漢美上品ニ云
異ナルトナシ初冬ニ生ストイヘリ



エノキタケ

省過ニ載ル所ノ圖菌史ニエノ
キノ老根及ニ朽株ノ上ニ生ス梅
タケニ似テ長脚白背深褐色
脚ト皆黒褐又黄褐ノ者アリ
鮮淡數百莖ニ至ル秋ノ間ヨリ
冬春ノ交ニ至テ猶生ス柔滑
香美晚テ生者尤妙乾高ヘ
水ニ浸シ煮テ食ス亦風韻アリ
更長大ニシ灰白ノ者アリ平
タケトナツク今市ニ貨賣者多ク
ハ朽株根ヲ土室中ニ置キ茶汁
ヲソキ而獲ニ莖葉ヲ以テ生スル所
故ニ味ト自ラ生者ニ劣トイヘリ



ムクエノキクダマ

省過ニ載ル處ノ圖
菌史ニ狀エノキタケ
ニ同クシテ味ト稍劣
ル下品ト為ストイヘリ



クルミタケ

省過ニ載ル處ノ圖
菌史ニ形エノ本タケニ似
テ黄黒粘滑膏ノ如ク
クルミノ朽株根ニ生ス夏
ノ初秋ノ晩皆有トイフ



クルミタケ

レヤウケニボウ

日光菌譜
ニ載ル所ノ
圖



クリタケ

信陽菌譜
ニ栗ノ古木ノ
上又生栗ノ
根ニ生味
甘美柄硬
クニ食フ
地ニトイヘリ



クリタケ
毛菌圖ニ
載ル處。

類カワリノクリタケ

信陽菌譜ニ栗ノ古木ニ生
ス色黄味と苦ク食フカラ
ストイヘリ



皇和草譜ニ一種クリタケ
江加ニ生ス大サズ草ノ
如ク傘浅ク赤色最モ和
滑柄大之乾者味と美此
把草ニトイヘリ



クリタケ

菌史ニ載ル所
ノ圖同書ニエリ
キタケニ似テ栗
樹ノ朽根ノ上ニ
生ス長脚黄
褐或灰色ノ
者アリ味と佳
又ハタケニ似
稍大ニ灰荷白
面緑色ヲ帯
ミアリトイヘリ



又ハタケニ似テ肥大菌茎淨
白面栗ノ殻ノ如ク八月樹下
ニ生ストイヘリ

クリノキモタシ 奥陸

クリタケ
挿本式
藏圖

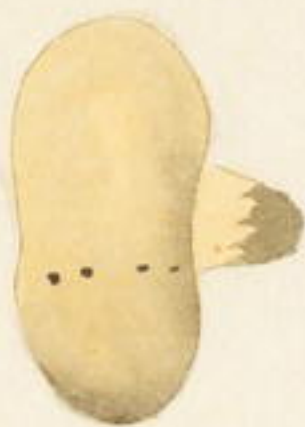


クリタケ
音過ル載
ル所ノ圖



ソヨエタケ

信陽菌語ニ
載國同書
ニ形御上人ニ似
味と及ス面深
緑ソヨノ樹ノ
葉ノ色ニ似タル
故ニ名クトイヘリ



ムメタケ 梅草 吳縣

梅樹草 吳草



菌史ニ載國同書ニ老梅ノ樹ノ
下柿ニ生ス中美下ニテコレヲ吟采滑
鮮美香氣甚々烈夏秋ノ間コレヲ
一種淡紅色ノ者アル形稍肥大香味
頗ル老ルトイヘリ

ムメタケ

信陽菌語ニ載
ル所ノ國同書ニ梅
ノ樹上ニ生セス地上
ニ生スムメタケノ名
詳カナラズ味佳ナ
ラス下品トイヘリ



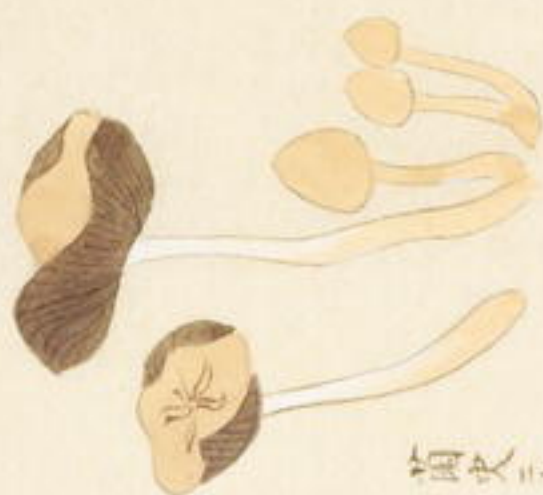
ムメタケ

音過ニ
載ル所
ノ國



サクラタケ

菌史ニ載ル所ノ圖
同書ニ古来ノサクラ
ノ根ニ生ストイヘリ



ムクケタケ

ムクケモタニ
音過ニ載ル
所ノ國



菌史ニ本槿ノ朽株ニ生ス
テノキタケニ似テ質肥香味
則及ハス越後ノ人多ク取
庖俵ニ充ツトイヘリ

ノキタケ

音過ニ載ル所ノ圖
菌史ニ益莖皆褐色又
赭色者アリ形ニイタケ
ニ似テ瘦小ク柔脆中虚
冬月蒙ラ朽槿ノ根ニ
サ敵ニ来浦ヲ流テ宿ツフ
レハ即チ生ストイヘリ



本草綱目卷之五十一 菌部 第一 芝 第二 茯苓 第三 猪苓 第四 桑寄生 第五 菟丝子 第六 槐花 第七 槐实 第八 槐子 第九 槐根 第十 槐叶 第十一 槐花 第十二 槐实 第十三 槐子 第十四 槐根 第十五 槐叶 第十六 槐花 第十七 槐实 第十八 槐子 第十九 槐根 第二十 槐叶 第二十一 槐花 第二十二 槐实 第二十三 槐子 第二十四 槐根 第二十五 槐叶 第二十六 槐花 第二十七 槐实 第二十八 槐子 第二十九 槐根 第三十 槐叶 第三十一 槐花 第三十二 槐实 第三十三 槐子 第三十四 槐根 第三十五 槐叶 第三十六 槐花 第三十七 槐实 第三十八 槐子 第三十九 槐根 第四十 槐叶 第四十一 槐花 第四十二 槐实 第四十三 槐子 第四十四 槐根 第四十五 槐叶 第四十六 槐花 第四十七 槐实 第四十八 槐子 第四十九 槐根 第五十 槐叶 第五十一 槐花 第五十二 槐实 第五十三 槐子 第五十四 槐根 第五十五 槐叶 第五十六 槐花 第五十七 槐实 第五十八 槐子 第五十九 槐根 第六十 槐叶 第六十一 槐花 第六十二 槐实 第六十三 槐子 第六十四 槐根 第六十五 槐叶 第六十六 槐花 第六十七 槐实 第六十八 槐子 第六十九 槐根 第七十 槐叶 第七十一 槐花 第七十二 槐实 第七十三 槐子 第七十四 槐根 第七十五 槐叶 第七十六 槐花 第七十七 槐实 第七十八 槐子 第七十九 槐根 第八十 槐叶 第八十一 槐花 第八十二 槐实 第八十三 槐子 第八十四 槐根 第八十五 槐叶 第八十六 槐花 第八十七 槐实 第八十八 槐子 第八十九 槐根 第九十 槐叶 第九十一 槐花 第九十二 槐实 第九十三 槐子 第九十四 槐根 第九十五 槐叶 第九十六 槐花 第九十七 槐实 第九十八 槐子 第九十九 槐根 第一百 槐叶

カキタケ

省過ニ載ル處口ノ圖
 菌史ニ初タケノ如クニシテ
 肥ヘ大サ碗ノ如ク黄白綠
 脚柄莖灰色ノ者二種
 並ニ食フベシ但味ト甚佳
 ナラストイヘリ



ハシノキタケ

省過ニ載ル所ノ圖菌史ニ
 エノキタケノ如クニシテ瘦テ小
 ク黄褐白キ柄味ト頗ル佳又
 豊頭細脚面灰色ニシテ裡白
 ノ一根五六十莖ヲ叢生スルモ
 ノアリ市ニエノキタケト云ハ或採
 テコレヲ雜エト云トイヘリ



本草圖譜 卷之五十六 目錄

本草圖譜 卷之五十六 目錄

菜部 芝栴類

香薷	桐薷	一
ふたけ	柳薷	二
やふふたけ	同	
同	同	
楓薷	三合薷	四
ふふふたけ	五	

本草圖譜 卷之五十六 目錄

本草綱目

卷之五十五

金

同	同	同
同	六	同
同	同	同
同	同	同
同	九	同
同	十	同
同	同	同
同	同	同

同	同	同
同	同	同
同	同	同
同	同	同
同	同	同
同	同	同
同	同	同
同	同	同

本草綱目 卷之五十五

金

本草圖譜

卷之五十六

本草圖譜卷之五十六

東都 岩崎常正 著

菜部 芝栴類

香草

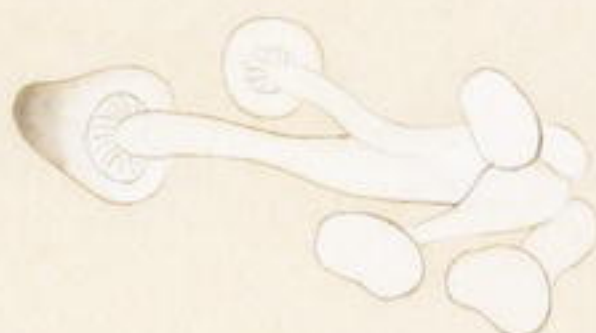
此條ハ一物を指し示され然る香氣ありきの
の總名なり

本草圖譜 卷之五十六

桐 草 集

さうなけ

毛菌圖
載る處



菌史ふ古き桐樹の根ふ叢生は灰白味い
美し然れども恒ふんあを物ふあふれとつて
り同書ふ榮幸難識を引て西土ふて桐
草と麻油と漬と食ふをりて

さうなけ

看過
載る處



柳 草 集

べあきだけ

信陽菌譜
載る圖を同
書ふ甘美と西
とふたふり



やあきだけ

看過ふ載る處之菌史ふ嫩張
残り如く長き脚ふて叢生はの
白梢又かて則黄色ふ変に



軟滑ふて鮮
美むとも京
腐と北菜
ふ並ふ又黒面
白柄ふて形甚
大者ありとて

やあきふ

毛菌園
載る品



やあきふ

看過
載る品



やあきふ

菌史
載る品



楓草 解

類の説ふ生爛楓木上味甚香美最為佳品なり然れども香木類
 楓香脂の下に菌有毒食之令人笑不止地漿餅之と
 ころ俗にふいふ一名まらふとふものあり形状常の
 菌に似て色多く白に誤るをふいふ笑不止は紅の
 如く高木の頭上を登るといふ此物俗にふみどり生れ
 物なりとふハ楓をくると訓俗にふみりと云ふ由
 ちやうど和のわかし生れ菌有毒無毒詳々ん其の
 楓樹唐山より渡り来り百年より此の菌を生ず程の大
 樹なり由て類説處の無毒の菌を生れといふも見れ
 按てふ類曰楓木に恐くハ誤字や別物なり知へ
 皇和草譜に笑草一名舞菌處々陰湿の地或はこれを生れ
 状霍くけふ似て小く其色多く白其質甚と類度誤て
 此を食へ即ち乾笑を發し起居常を失ふと云ふ其草譜に
 も生楓樹上有曰笑草食之令人笑不止と云り

ふーけ

菌類と載る所の音同書ふ
 もみしの樹のふし生者亦人
 とて笑止るゝむ又按るゝ
 うもみしをわけて楓と名づ
 近世本草専門なる者皆以
 て此を然れども其生る所
 所の菌類を以て笑む亦
 母に楓樹が生る者全も
 則ち其楓の全類知へしと
 ころ



合草解

ふーけ

ふーけ

此も菌譜に日乾さく時、
にちまりふくもく成るるく

ふーけ野

也さ死のふ

りふもきのこ上門

本朝食鑑に海西山北諸別多く有り記別勢別参別遠州駿州甲
 州等山中や亦多有と有り又推草ハ推木の上及び老木の根
 の上生れ或ハ諸木の枯て生氣盡さる者雨露濕蒸も得て
 生れ状ふーけに似て頭円く草短く肥三四月生れ甘
 脆香美ふーけと稱れり又推草を作るハ柯樹に櫛
 いらて一名そらの木等も九月二三尺小切り皮ふりて灰を付
 け水にふつめ置年を経て七月采り出日陰に立ふけを人時
 草を生れくれをふまふーけと云廣東新語に家草といふ
 乾したるを陸容菴園雜記に乾柯草といふ奥州にてはふーけ
 と云ふ大和本草に推草ゆふの水に生れ者形状同れ
 るも毒なり或人を殺れ食ふべし今世或ハ生推草を食て
 死有る或故を知ら者亦盡ゆふの本に生れるを食たり
 擇之ハ本草にも木に生る其性良毒あり如しと云

ふし

看通子載之苗之白和菌譜は白き
有胡端とつ赤者を若端とい黒き
者も鉄端といて其類亦ありと
生れ断たり端株の上及び僅の
樹に生れ物何草も拔し今通て
推草とつふもの十の七皆端草と
いふ

菌火は三四月より秋分まで山中
ふた比の樹の根及び朽株の上不生
而紫黒菌一茎は皆白色肥頭瘦
脚質甚く硬く香気絶倫京谷
諸山の向あり又秋月よりや
及びありの諸木長さ三尺許り
伐り水に浸し經石を水で粗弁し

用は碎飲
其味は
陰處に置
別種久菌と
生れ形味殆ど同じ
同一乎といふものあり



ふし



ふし



かき

菌史
載圖



かき

看過載圖



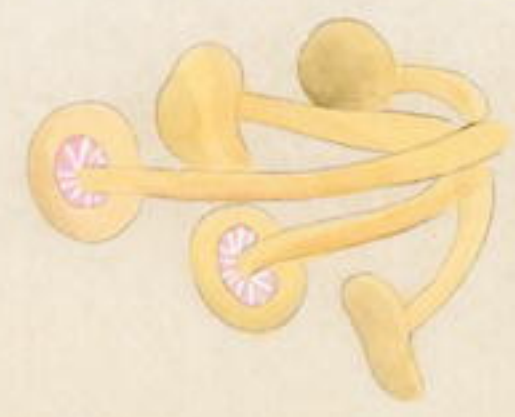
かき

かき

柳本氏
載圖
の
生



右菌圖に載る菌之白生和草譜ふ
かき常川水戸より多し山人
研とく此を鑑し山氣薫蒸せられ
て草を生れ柯草と異なり
土人柯草ふとれを売つ味も佳
くとり日光菌譜ふ其色微く
赤色を帯びとさうふの類
かて異品山之秋雨の後生すと
多しとつ



ふてふ

信陽菌譜云、
菌之同書、
三列、
ふてふ、
を作、
偽、



かふけ かふけ

ふてふ ふてふ

本
食鑑

柳本氏の菌譜云、
黒色、
似、
此種、
生、
時、
食、
へ、



かきく

看過去載る處の因
ちる白和譜も一名通
草披州少と丸もく
ろりろけとふ南部
つと丸と馬喰草
とふ山中よ生ん
秋月を以て盛ると
ふれ長き並巨茎よ
しと煮のよ或麟甲
錯然とこ其裏皆肉
刺あり硝裂更ふりの
色ふく都こ古き銅色
風乾とる者ふ黒
色奥州羽列諸山



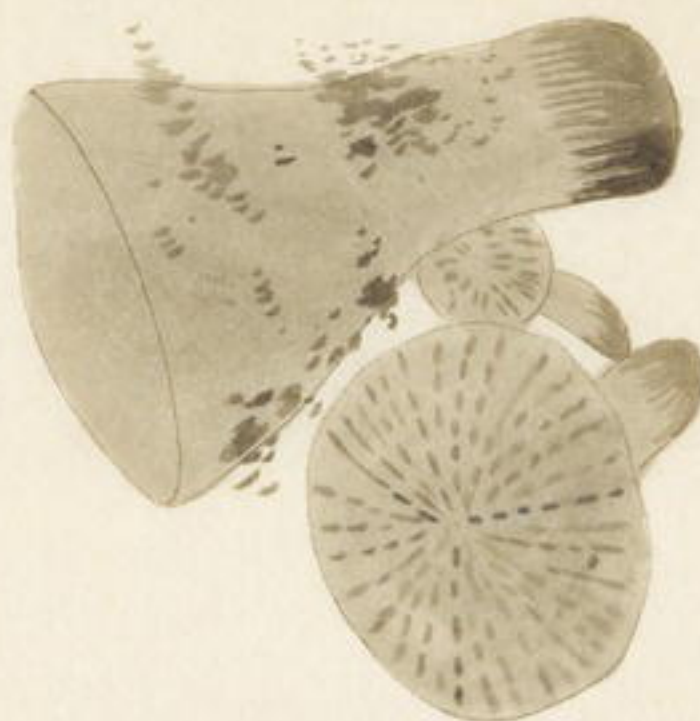
産せも物大と二三
尺ふら者寧の如
く生ふて食をれハ
毒あり皆既蔬とふ
に諸列より出る物
其味は多くハ微
淡一草葉は産り
もの味は淡く
といふ



ろくろけ

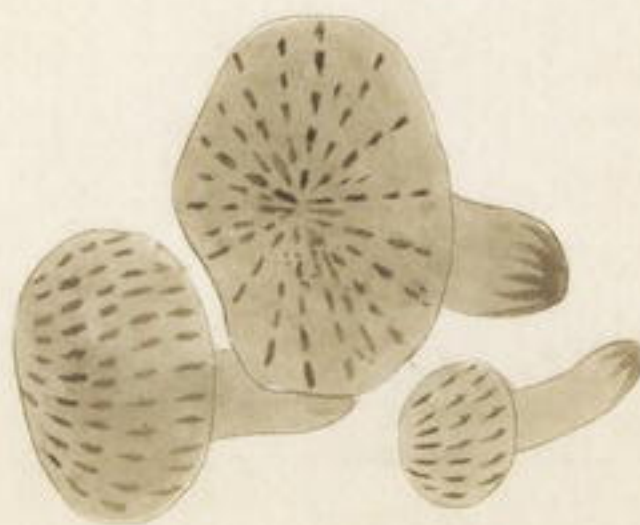
ろくろけ

信陽菌譜に載る
菌とて同書に俗に
草とけ近山に生に
る有味の甘美上品
とありと云



ろくろけ

信陽菌譜に載
る菌とて同書に
浮山に生る物
黒色肉薄く苦
味を帯ぶ下品
とありと云



あいさか

信陽菌譜
載る面多く同
書近山に生
れぬと乾れ
ふ味ひまろけ
か減るなり



あろか

あろか 西国

信陽菌譜に載る
面多く同書に乾
してぬき食へ上
品と云ふなり



このふ

同書に載る所の菌之圖文
獅子ふに形似較ふと
背面皆七刺の略袋衣の
状に似たり故に多く信人昔
て金の為ふに贈るなり



をーゆーん 別名

うーのやう

ろーー 濃美

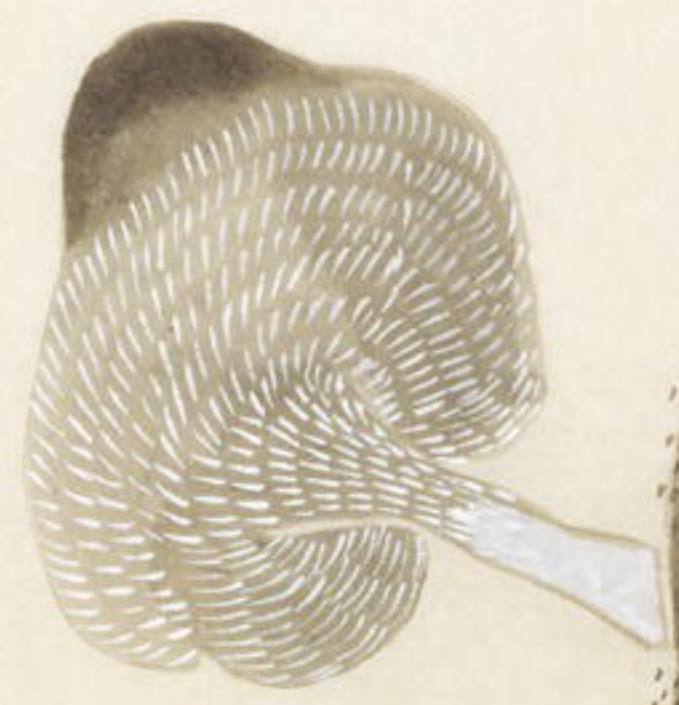
ろーん 濃美

信陽蘭譜に載る同之同書
 やーハ老人の唇の類又々
 ろん其形小象をみちやん
 伊豆郡より昔日これち食に
 日蓮宗の上人即これち食に
 毒ふーこ曲と謂名と云に
 是非を和れ盛黒と裏白味の苦
 を常ふ内淡白一焙切形美
 けふ似く揉薩蘭酢みて
 和まれむちやん



ふぬこふ

底物雪生小載
 る處の毒菌也
 子形色以之け
 お似て傘薄く實
 度灰の間村ゆふ
 生に苦くまふ
 毒ふと云



牛のひしけ くらもち

あやふ^{が江} くらふ^{が江} くらふ

地踏菜^{本草} 砂羅^請 神野^録

地皮^河 志

成物生ふ哉、苗之園史、同書と列、
秋の同樹下、地生、一面黒色、牛の背、小
似て、底白人、蜂、窠、眼、も、あ、け、な、き、と、二、
す、ち、止、六、す、ち、止、短、脚、半、の、上、中、の、隠、れ、味、
の、少、く、若、く、し、う、大、如、本、草、の、地、皮、地、踏、
菜、と、同、物、あ、る、一、階、階、の、地、或、二、階、地、
ち、生、じ、恐、く、ま、あ、る、食、ふ、一、呼、に、と、
一、り



うすうし

菌史、載、國、之、同、書、武、判、
向、寫、秋、葉、生、じ、と、う、又、曰、
脚、之、て、嫩、上、の、仰、き、前、の、形、を、
成、り、赤、白、の、状、に、似、く、故、に、名、
く、淡、黄、褐、色、別、に、橘、も、生、じ、
榴、の、如、く、重、皆、淡、黄、微、一、紫、
色、を、帯、ふ、大、者、四、五、寸、を、主、
又、純、白、色、者、有、り、及、じ、子、の、如、
く、り、と、仰、き、蒼、黒、褐、黄、微、者、
形、甚、小、く、山、人、稀、に、取、り、食、
味、は、天、の、子、の、或、は、小、女、の、
食、ふ、一、呼、に、と、





うすけ
川尻
楠本氏の
藏圖



うすけ



うすけ

省過不載
處の者



蘭文不載之處の圖同
小坂處の産す所の
形芝文の意は違ふ
捌名つのも名
乾前合味人
にけり

うすうす

坂東記行
載る



うすうす

信陽菌
譜載
る



個 亭草 解集

あふらあめー

ぬめりふけ

ぬめりあめー

ぬめりふけ

菌史を載る處の番あり白土加草譜ふ
此亦玉草譜ふ下記在原山中
産に秋月盛ふり菌史不微張
て蓋をりぬめりふけ大に面黄褐色
補甚深く生る皆白色粘滑なり
膏油の如く微く軟く鮮美宜く食し
作れ山陰樹下及び芝生の中ふ生れ
和泉二列多有と云ふ武州志村ふも
ひゆふけと云ふの食して味の
佳なり



松茸

あしひ

松茸

東鑑

松茸

遠東

大和本草云松茸九月十月生凡味最良水茸の中第一也
 と云ふこと多し然り山川の産起もよく甚多一肥松より
 凡生せしむる西国より肥松多し又松茸少く茯苓多し一
 肥松多し又松茸多し茯苓少しと云ふ本朝食鑑云洛の
 諸山最も多し肥大香美ありなほ北山の産勝りとも云
 丹後江別智別紀別檜別産亦云此水久遠西諸州亦多く
 有江東諸州亦多く有と云ふ香美洛成の産不及
 根の下鬚より或は葉をふた俗に松茸蔓と称にこれ
 採り裁て培てまゝ生せしむる地も此れを生こころ城州
 荷山の産形状大平と云ひ優れ嵯峨の産月々野飯
 茸太く土中へ蟠居し針小土上より色白く香ひ強味
 い大なり又うづらけと云ふ松の皮の如き鱗甲班紋あり
 の羽小似たり又とふふと云ふ赤白の班あり鹿班の如
 産ハ為赤く硬し丹波の産ハ葉の色板一黒し武川河越の
 産ハ葉黄褐色形状小なり

信陽菌諸云松茸二種あり
 一ハ根の下より生一ハ根の下より
 生凡根の物香味殊なりと云ふ
 まろけと云ふと云ふ顔史云
 夫子曰ちとあり似て非なり
 もろを惡む其真を亂る
 以て云々東北栗田山及び江
 川安村小根より一名さき
 あり蓋皆赤色状ち全く松
 茸に似て香氣あり人誤
 誤と云ふを食ひ生其毒
 ありと云ふ一ハ此を云ふ

あしひ

菌史云
載高



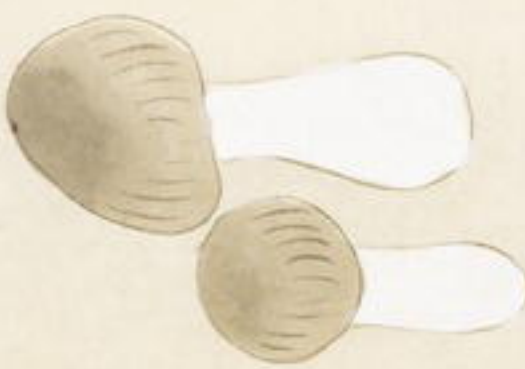
もろこけ

節本氏
の蔵書



つらふ

日光菌譜に載る菌
同書に九月に生じ長
六七寸松菌の類と
す

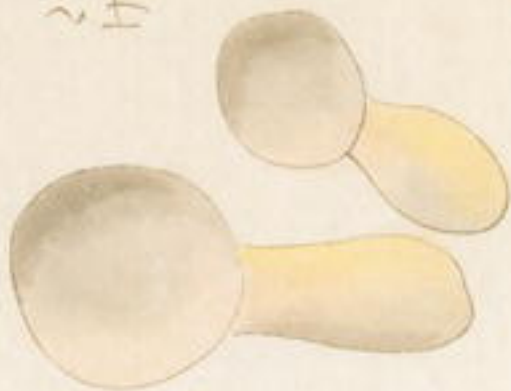


もろこ

毛菌園
載る菌



とまろけ



信陽菌譜に載る菌の同書
小松茸と似て小く全く非ん
松茸の類より下なり

とまろけ

同書に載る菌の同書
六月に生じてとまろけ
似て香味甚く者なり



とまろ

宋氏菌譜に
載るものと



こまつこけ

大和本草 小五六月 小生にふきこまつこけと云味劣れりといふ
皇和草譜 小五月生 一て秋の草より大いあり然れども香味及まん
或いふ小毒あり肥前地方にふつちうむりといふといふ
小又早 ちうこけあり 六七月間 山中 松樹の 間多く 生る形
状 氣味 全く 松こけ 同然なり 小松生 ちかりて 暖く ところ
つとも 毒あり 人々 佛に 貢ぐ 一く 設け きたる 富 小を へ 似る者
頗る 食と ちる べし といふ

本草圖譜 卷之五十七 目錄

菜部 芝栢類

ちまつだけ	一	ちまつ
同	二	あなまつだけ
よひ		一種
ふしまつだけ	三	あかまつ
あまつ		あかまつけの一種
あなまつだけ	四	はなまつ

同		志め〜大井	五
同		同	六
同		一本志め〜	
同		志め志め〜	
同	七	志め〜	
志め		志め志め志め〜	八
志め志め〜		同	
志め志め〜	九	同	

志め志め〜		同	
同	十	同	
同		志め志め〜	十一
志め志め志め〜		志め志め志め〜	十二
同		志め志め〜	十三
同		同	
志め志め志め〜	十四	志め志め志め〜	
志め志め志め〜		志め志め志め〜	十五

本草圖譜卷之五十七

東都 岩崎常正 著

菜部 芝栴類

もつたけ

諸國山野松樹の下小初秋生り形状同やうて色數品
あり味ひ甘美なりこれを採り宿を経又手を觸れれば背
面も小銅綠色を生り又虫を生し易し近年もつ苗の
生る處の土又熾張て荒しむるを擇み松下のあそ地
に散り米洗水を日ごとく生せむしこれを珍し

たふたけ

日光菌
載る
図



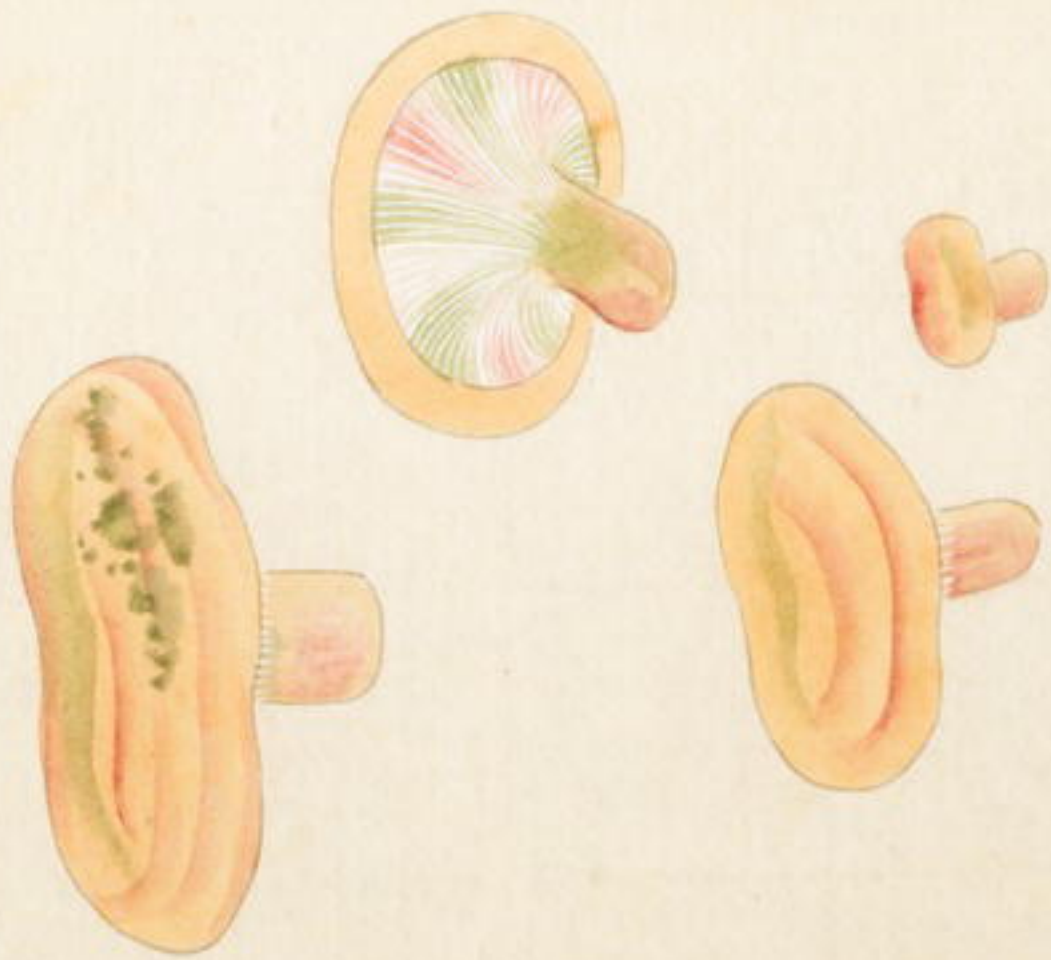
ふふ

菌史ふ載
る図同書ふ
織張て好
脚西赤紫
色を帯ひ
猶淡褐色
久くても変
く黄褐色
く夏の
初諸菌は先
く生を設
初菌の名は
ふふ



たふたけ

楠木氏
の図



あかきつたけ

信陽菌類ふ載る國
同書ふ五六月雨を得
て則生ひ嫩ふ緑斑の文
あり裏柄並し色白
く味い甘く愛ふべし



一種

ちきふく中の如
く嫩く斑文あり毒
の有無をわける
まう細くしう

まいたけ

同書ふ載
る國同
書ふ伊
余郡ふ
生ひ北
地の山
人嗜む
乾し



下品くあり
生むるまう
見むるまう



いづ山

まいたけ

日光菌
類小
載る國



まいたけ

信陽菌類ふ
載る國同書ふ
らふけふ似
非く味いむ
下品くあり



あかきつたけ

菌史ふ載る國同
書ふ拂らふけ
の紙橘色の者毒
雨の候諸品を先ぞ



同書ふ産物寫生
をもてこれを煮
甚滑きものぞ

出づ城亦さふけ
名く常陸山中ふけ
と州人忠臣文云ふ

あかこたけ

菌史ふ載る図同書ふ七月
生ひしりふ皇和草譜も處々
山中陰濕の処に生ひ表裏
紅黄菌^{紅黄}くは豊く重亦
孔あつ都て尋常のふふ
大うて其味もふふ
鄙く久くは則亦補
發は八月と以て多ふ



あかこたけ

菌史ふ載
る図同書
ふ秋の山
野陰濕の
處に生ひ
形初ふ
の如く傘
頂白色微
く黄を帯
ふ菌小疎
密の二品
ある味ひ
若く食ふ
べふ



はらりふ

有過ふ載る図菌
史ふ嫩張て大なる者
七八寸より尺餘を至る
四の面肥る管脚^{管脚}矮
深き菌の最も大
なる者之他白或
灰黒色を帯ひ又
黄菌なる者
初生土々載て
出づ故ふ土の
名あり有處陰濕
の土腐らう外皮を
去塩水に浸し名
を怪変へ味ひ佳
なり

或は毒を食ふ
べふ



しらふ

有過る載る
 図菌史ふ他
 白の物より



ふりーだけ

楠木氏
 の圖



志々々々

有過ふ載る圖 菌史小 山陰樹
下早ま、濕地多く生れ故小名を得
る形ふ菌の如く茎稍長く面灰
黒色又黒褐、黄黒の者あり、菌莖
皆淨白茎鬆脆、損く易く甘く滑
く香美に諸州皆あり而も京師
の者尤く為り豆腐にふくみ煮
或は薑屑を下し或は鹽とひを
下し殆どくちや、類頑の上下
総州産とも開則論せざるなり
塩藏及び乾晒者亦各風致なり
言へり



志々々々

信陽菌譜に載る圖
同書小俗小大黒、稱
もこの柄肥大う味
い甘美なり

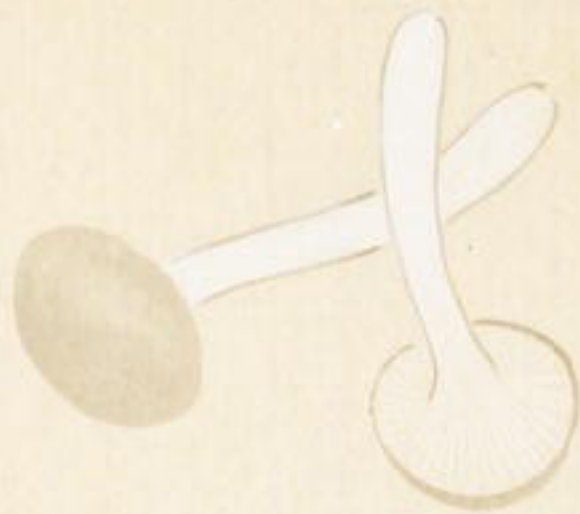
志々々々

同書載る
図同書に
蓋大なり著
なり次
なり



一本志め

信陽菌譜小載る図同
書小毒あり食へり
熟とこれを見よ全き
草の類より



一本

志め

毛田図

小載る図



芝ん

志め

楠本氏
の図



芝ん志め

看過小載る図
菌史一本數十
茎茅柴の中
叢生りて
りふ似て色淡
褐味り甚く美
なり



いふらり

いふぢめ

信陽菌譜小載
図同書小志
けふ似て形小
座數百最生を
味し新減の中品
かとも



ぬめり

同書小載る図同
書小志けふ似て非
之味し最下
食し腹痛瀉下



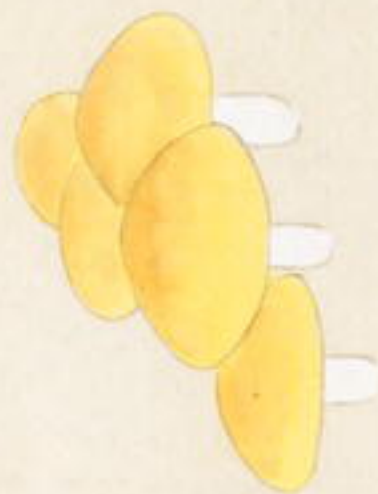
むちぢめ

楠本氏の図皇和
藪譜小下惣佐倉又
わう藪を産する
地或いはこれら備前
宮山小生もる深
葉わして鮮明太
奇なる味
美毒あり



かきふしめ

信陽菌譜ふ載る
 図同書ふ形小く面
 紅紫色菌小茎と弱
 白く一種形色似て粘
 滑の者毒ありこれを
 食ハ腹ヲ毒ましくす



かきふしめ

楠本氏
 の図



あなふしめ

日光菌
 譜ふ載る
 図



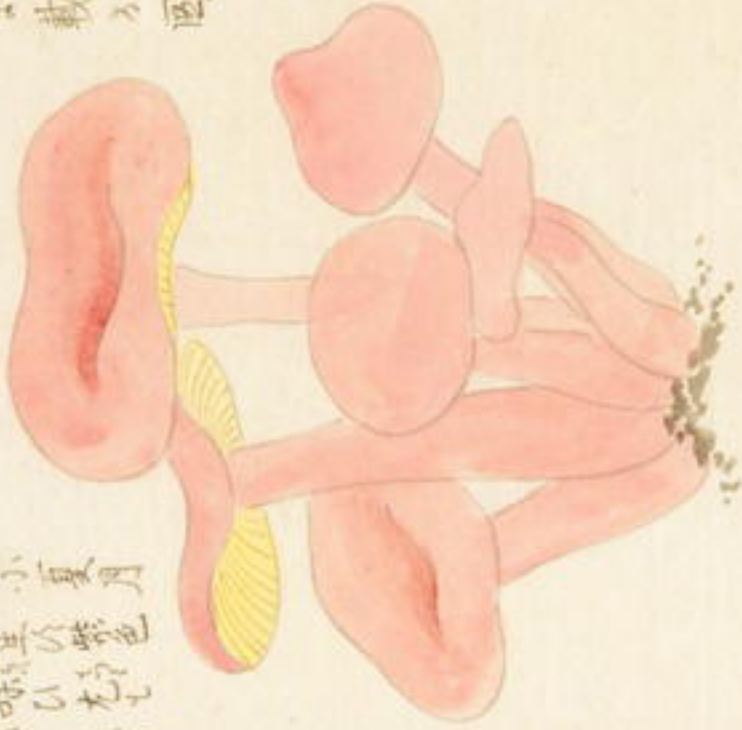
あなふしめ



菌史ふ載る図同
 書ふ青面白楸形
 亦ふしめ〜がふしめ
 子

やぶきり

信陽菌譜
に載る図



同書小夏月
多く生ひ紫色
の者味はた
佳し根は竹葉
の氣に云う

やぶきり

又さくらん

信陽菌譜に載る図



同書ふ白色の者味は稍減
竹葉の氣に云う

やぶきり

菌史ふ
載る図



やぶ
きり

同書ふ載る図同
書ふ牛の御前
後ふ生ひ云う



中志

菌史小載る
 図同書小濕
 ト小似て瘦
 る質白楠楮
 中庭葉や多く
 夏秋の間多く
 竹林中ふ生ひ
 子



志七志

信陽菌齋
 小載る國霜
 後山陰小生
 ひ味いふ
 けり減ひ
 ころり



いんふふあ

有過ふ載る図菌
史ふさか木の樹多き
処ふ産り瘦く頭肥
る脚一本叢生ひ五
六茎或は七八茎面黒
色ふして背白く柔靱
小抱て天乾て以て遠
は致ふ常陸の人
或名てわづ菌と爲
りしる



あした
あふ

菌史ふ載る図
産物寫生しる
りふ似て長脚
面褐色又淡赭
色の者あり底白
く摺拭き食ふ
べし



あゝたかき冬

菌史ふ載る國
産物寫生ふ小
傘ふく淡黄長
脚微く白き者
ち竹葉甚軟し
亦食ふべしなり
しなり



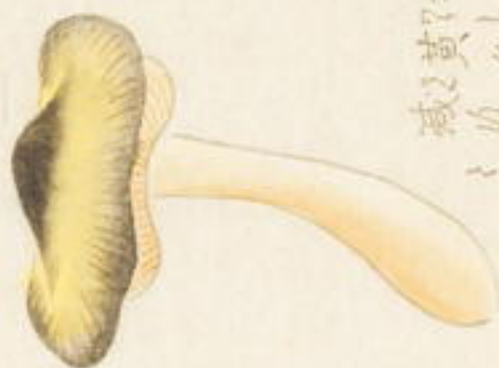
たかき

省遇ふ載る國菌史ふ蓋錢
の大きさの如く面黄黒菌一茎
皆深黄初り北上ふ一尖を出
術久くして蓋茎分る茎肥く中
実し霜も得て最も盛ふ菌の
魁く生者北山及び二伊諸山ふ
生り軟く滑り鮮美関東ふこ
無し偶々豊人世々塩藏致し
江戸市中稀く貨者ありと
りり



モミタケ

楠本氏の
図



信陽菌
齊小載
る圖蓋
黄褐色小
減以下品
いりり



モミタケ

アカタケ

菌史小載
圖同書小淡
紅接脚味
るいり



なつ
け

毛品圖
載る圖

ふあめ

日光菌
潜ふ載
る圖

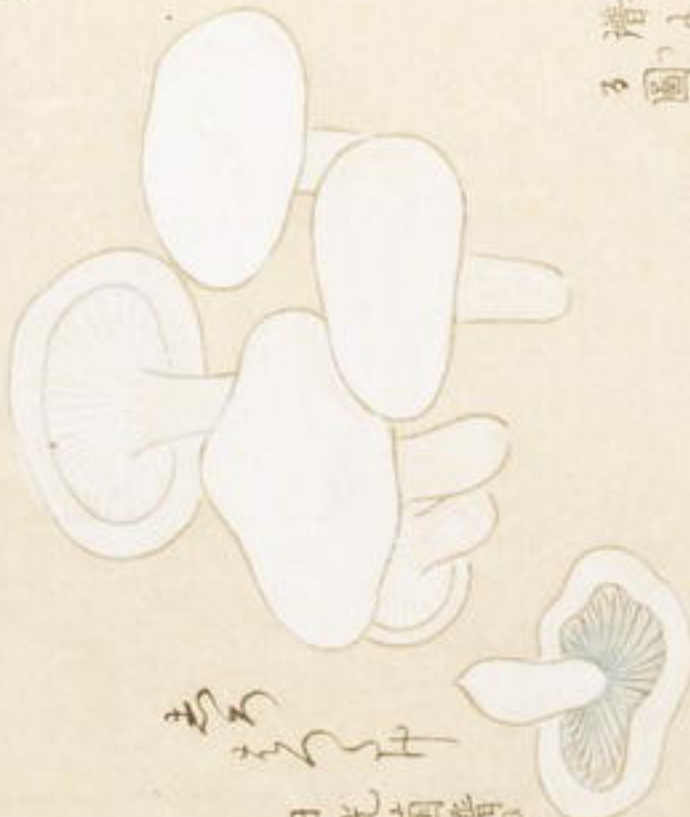


ふあめ
ひき

信陽菌
潜ふ載
同同書
土砂をか
くむく
生ひ
名く下
品く
く

つちがむ

日光菌
潜ふ載
る圖



ふあめ

日光菌潜
る圖



ふたけ

着過ふ載る
 圖菌史はあ
 いたけは似て
 形稍瘦く
 ものあうとく
 り



まつたけ

菌史ふ載る圖同
 書ふ古松の樹の根
 或は枝頭こ生ひ形
 松菌ふ似て徹張て
 上小向ひ白色微し
 黄を帯ふ小者一二
 寸大なる者尺ふ近し
 韌滑微し苦く松の
 氣らう能腹痛泄
 瀉をも止む又重に
 黄色らうて傘上
 黒点ある者あうと
 り



まふおや

毛菌圖
ふ載る
圖



一種

楠本
の圖
樹の洞
は生ひ
くふり



まふおや
まふたけ

信陽菌譜ふ載る
圖同書ふ古松上ふ
生ひ味ひ淡松ふ
ふ類せひまふおや
名義曉つひいり



一種

菌史ふ載る圖同
書ふ五月枯松の
根より生る



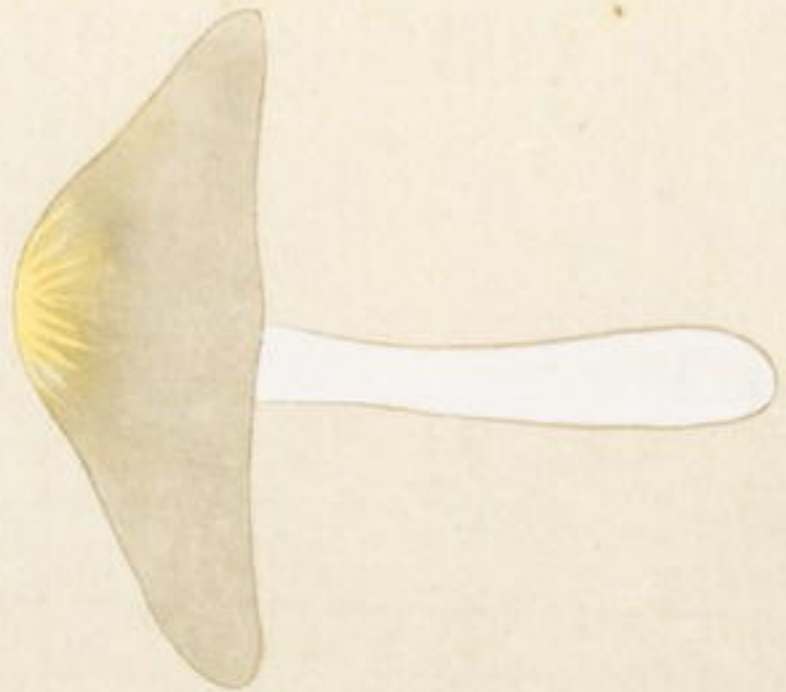
ま
一種

菌史ふ
載る圖



ま
せ

日光
菌
小
載
る
圖



一種

日光菌
 載
 同
 圖
 書
 小
 冊
 の
 如
 き



松の
 おやの
 一種

六月山中
 まり



麥草集

せうろ

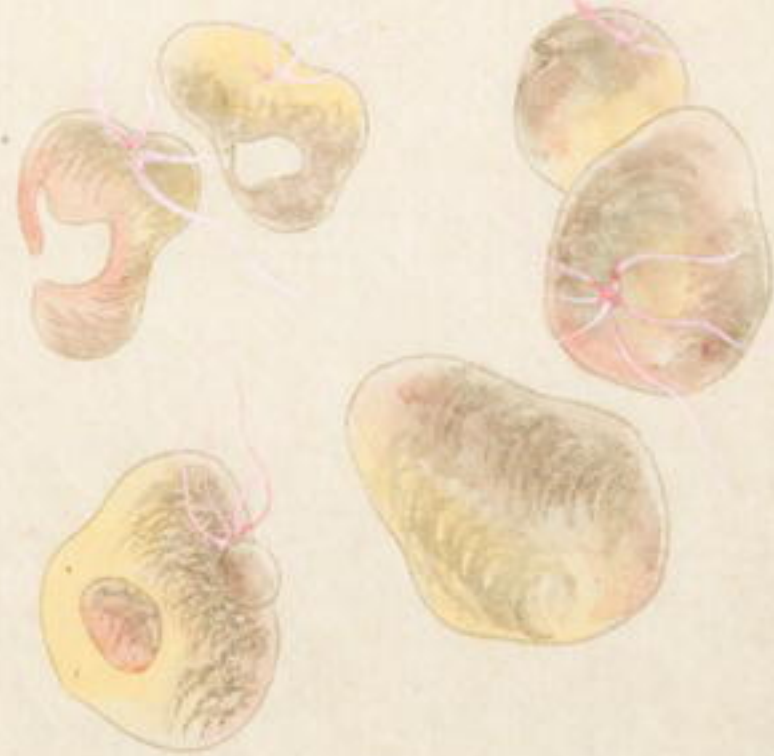
松露 録傳信

地腎 廣東新語

大和木草ふ松林の中、白砂は生ひ冬春の間雨後は生
 ひ松氣あり味ひ美く性ろく毒あり病人食く喜あり
 然も生物うれゝ、瀉痢こゝ食つかり乾くも害
 あり其形田く大なる梅子の如く傘茎あり黄白三
 種あり皮の中純白して柔軟なるを上品より俗小餅
 松露より其次は淡白脆鬆あり、其次は黄黒之
 是下品之一日を経て、味をもる新をこゝより日を歴て
 敗易く食つかり白き新く大なるをこゝ洗て沙を去り
 煮てもやきても食ひ又沙をこゝ切て片とあり日は乾く
 遠きは奇り味より塩は藏るも佳く山は生るも毒あり
 食つかり進年松露の老なるを擇ひ取り細く切り
 圃ふうねを作りこれをまきて土をかひをい生せざる地
 と生ひこれを作り松露より

せうろ

肴過ふ載る圖菌史る
 海濱松下砂場の中は生
 ひ春の初夏に至り最も
 多く茎無く蓋あり形卵
 丸の如く或は沙土を戴き
 或は地上に礫石より黄白
 淡紫黄褐紫黒數色
 あり或は淨白の者あり
 最も佳あり種より稱涎
 膏あり衰則は乾淡甘微
 一松氣あり



せうろ

信陽菌齋
 る載る図同
 書海蔵松
 下よ西三種
 あう信州ふ一
 種俗ふあう
 せうろと名
 るあうとふ



せうろ

日光菌
 齋小載
 る図



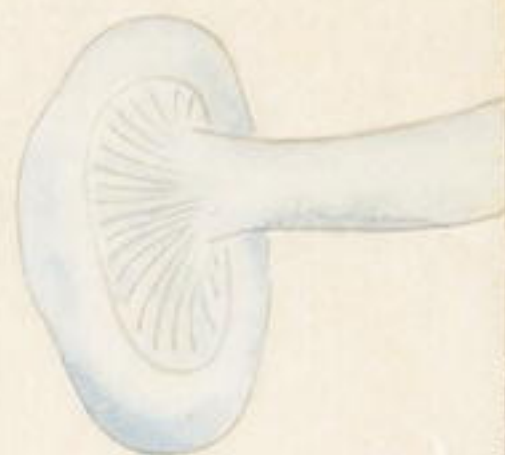
あいたけ

菌史小載る図同書
 る秋の向林中ふ生ひ
 傘薄く徑す許り青
 碧色こぼれしき
 漲へ背は銀穿孔石
 り茎細く背は白色油
 の身であう此菌初生
 即ち彼を張り諸菌
 小異へ漸く次で張大
 けり



あいたけ

毛^も菌^{くん}園^{えん}載^さる^る園^{えん}菌^{くん}
 史^し小^{せう}夢^む脚^{きゃく}肥^ひ頭^{とう}甚^し微^い
 も張^はひ質^{しつ}白^{しろ}く銅^{どう}緑^{りく}色^{しき}
 の點^{てん}はらう蓋^{がい}生^{せい}皆^{みな}硬^{こう}
 く蛙^か易^いかり五^ご六^{ろく}月^{げつ}より
 秋^{あき}月^{げつ}は至^{いた}りて盛^{さか}る生^{せい}ひ
 味^{あじ}いち^{いち}なるゆ^ゆに似^にて稱^{しょう}
 淡^{たん}く使^し馬^ば八^{はち}王^{おう}子^しの^の人^{ひと}多^{おほ}
 くこれ^{これ}を食^くひしり



あいたけ

信^{しん}陽^{やう}菌^{くん}齊^{せい}小^{せう}
 載^さる^る園^{えん}やまより
 たけに似^にてこれ
 を破^{やぶ}られ^れ藍^{あいに}
 の色^{いろ}をか^かひ味^{あじ}
 い淡^{たん}美^みくしり



あいたけ

菌史小載
圖同書小
申の四月某
氏園中朽壤
中産り大
きくも尺餘
小至一ふり



本草圖譜卷之五十八目錄

采部左栢類

ちたけ	一	同	
同	二	白ちたけ	
ちたけ		志々久々	
志々久々		志々久々	
ちたけ	三	同	
おめひさ		同	四

ととやふち		とふち
黒ふち	十七	おふち
同	十六	おふちと種
同		同
とふち		とふち
とふち	廿	とふち
天花草	不詳	

本草綱目卷之五十八

東都 岩崎常正 著
男 岩崎信正 校
門人 小山廣孝

菜部 芝栴類

ちぢけ

音過よ戴る圖
菌史小林木翁
蔚の所往々生に
茂翁或は茂緒を
禰白く繼ぎ戴る
帯へていたけよ
似く指度くはを
覆もは白潔清
あふはを水ぬ
多に即ち止甘滑
淑腫氣あふ美
とや糖供は甚
仙乾翁有るも
妙と云



ちぢけ

戴る音過よ圖



ちぢけ

あふちぢけ下先
方言

菌譜よ戴る圖同書よ状
ちぢけよ似て胎身くは
醗るときり白汁を出入敷
蓋楸黄を蝦夷人トイ
カセト云食にいと云



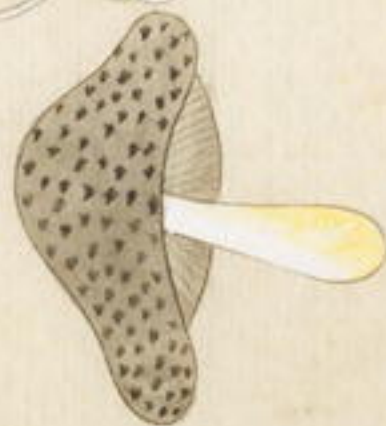
白ちぢけ

同書よ戴る
同書よ蓋
蓋より白色
少くは味
微辣と云



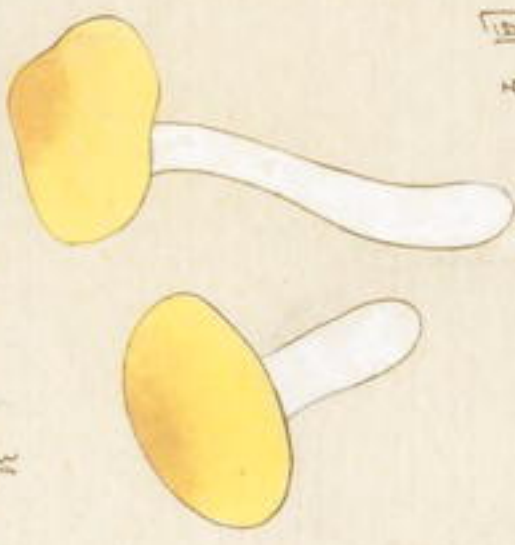
ちぢけ

日光菌
譜よ戴
る圖



あやうひ

信陽菌譜
載同書
小散野標
長標面白
背味久美
思人言近々
澤見手僧来
始て採是食
故も名を



あやうん

同書載
る圖同書
斐肥散
紋り玉褐
色底柄を
生と



あやうん

世賢寺

菌譜載同書蓋薄
長淡黄色重白色此種食
る人少手僧初て食人
多味食味淡重と



あやうん

ぬひき

信陽菌譜
載同書
とき花開
時此者盛
ふれ故名又
秋開后或山
或標下載生
氏煉布を引如
故水刃引
名蓋柄並
淡黄色味甘
く乾亦佳甘
味生有減



あやうん

菌譜載同書此
とき花開山腰
下小生故小名蓋
小淡黄色味甘
食と



あやうん

世賢寺

信陽菌譜

めりじき

菌史に載る圖同書小宛白
 中を蓋し縁上より向ひ背
 する元刺あり、宛なけり、似て蓋
 腹中屈る木碗く未葉小宛
 秋の間に茅紫の中及び樹陰
 小生れ象蓋帯連豆教尺れ
 を強り曳布の如く以て名を
 得く淡紅色の者あり形稍大
 小三河人、これを茶とて、人
 人、これをあふ、とて、人、微く
 穀ふ甘滑最し、食く美と云
 と云



めりじき

産物図生に載
 る圖同書小宛
 秋林野小生れ
 微く、白色微
 く褐色を帯底
 小銅碗身形、
 なるす、似
 更に肥蓋甚短
 く一葉縁延、教
 百葉小、至味、
 少若く、生を際
 多、小、わ、
 を調、食、又、晒、
 養、と、云、甚佳、
 と云

めりじき

菌史小
 載る圖



いぬのひさ

産物魚生小
 戴も圖ぬい
 き小似て脚長
 く傘頭敬程
 色を帯ひ一茎
 特出味の旨
 美なりと之



ふろりすき

産物魚生小裁
 圖同書小秋の間
 樹陰小生以形を錢
 松に似て粘滑面
 茶褐色底小細柄
 う柄と茎と澤白光
 潤其味の輕美と



好るをえす

廣物寫生小載
圓同書小和生
すき小形色相似
較肥味ひ少く常
と云



好るをえす

廣物寫生小載
圓同書小和生
喬木の下に生ず
本四五葉倫葉而
生ず特に出る者亦
あり傘張二三寸或
尺許茶褐色背玄
皆白色先有う質
數味酸と云



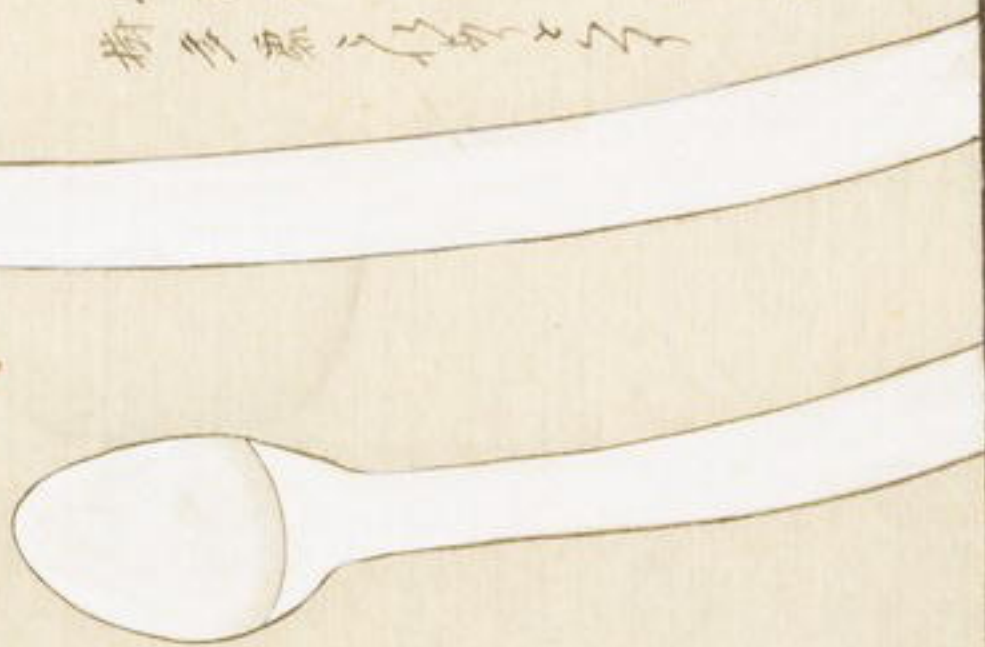
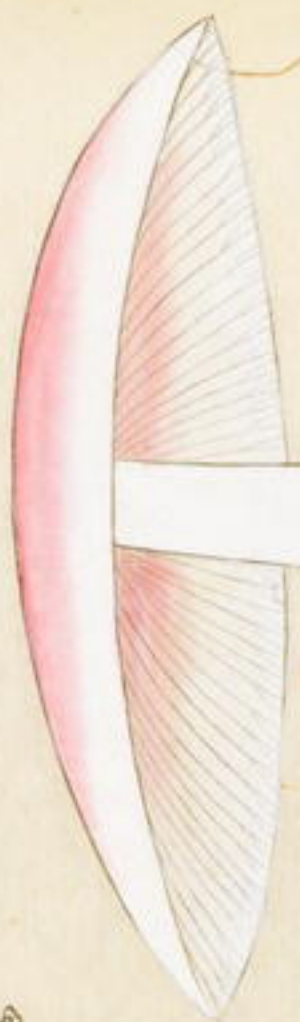
子 了 了 同名

菌 諸 小 載 圖
 同 書 小 秋 林 中
 小 丘 以 形 布 引 之
 大 小 似 大 人
 淡 黃 色 葉 之 似
 淡 紅 色 小 葉 以
 味 公 最 美 分
 食 之 之 之



つ ち け

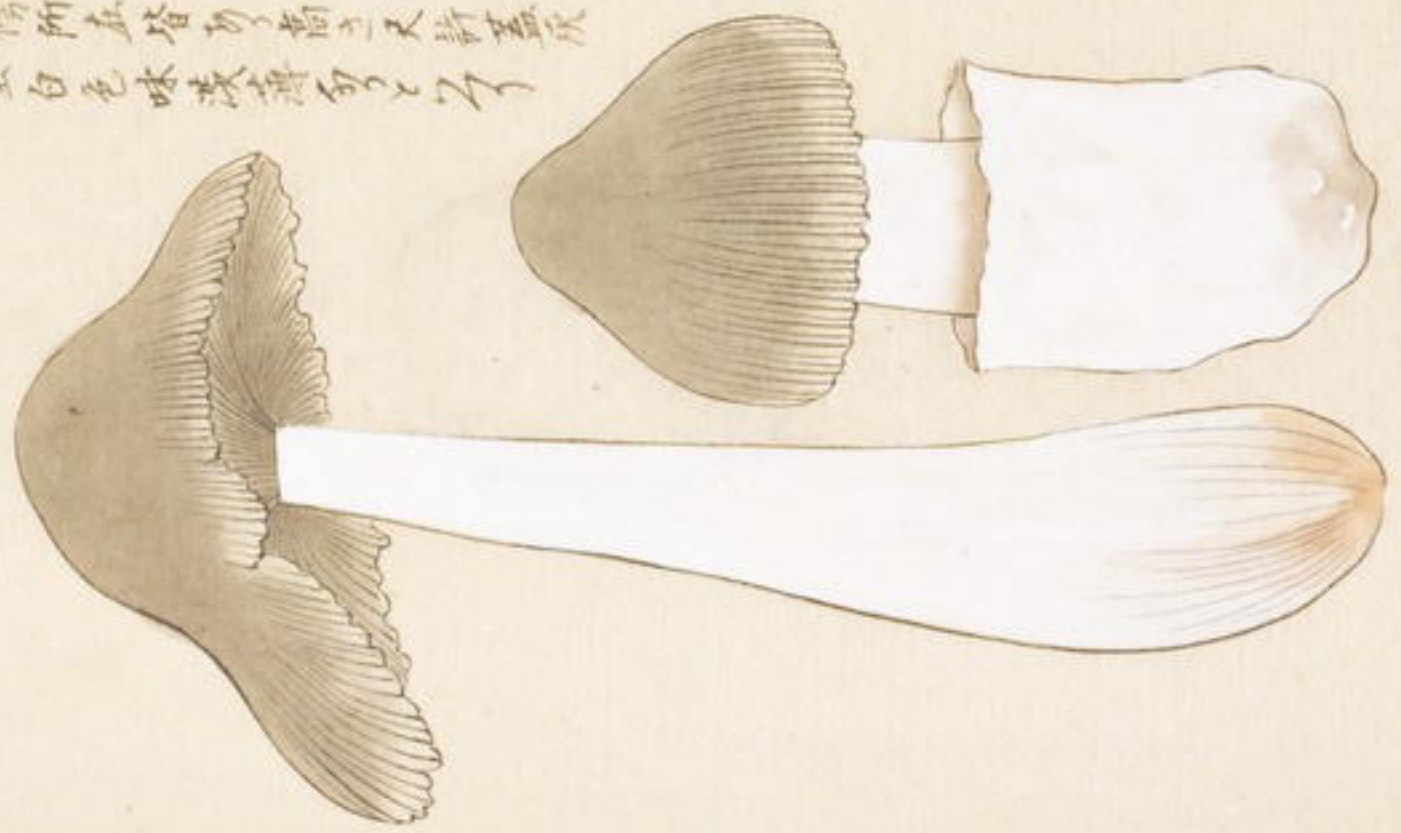
菌 物 寫
 生 小 載 圖
 同 菌 史
 始 生
 地 上
 形 如 傘
 漸 大 如 蟬
 長 如 葉
 腹 裂 衣 之
 徹 張 之
 大 如 盆
 小 如 卵
 瘦 脚 高 也



其 色 淨 白 微 紅 色 之 帶 其 名
 蓋 形 之 象 分 甘 滑 美 山 中
 日 人 採 上 珍 之 又 乾 藏
 以 腹 腹 之 治 凡 常 列 諸 山 林
 樹 多 衆 之 之 之

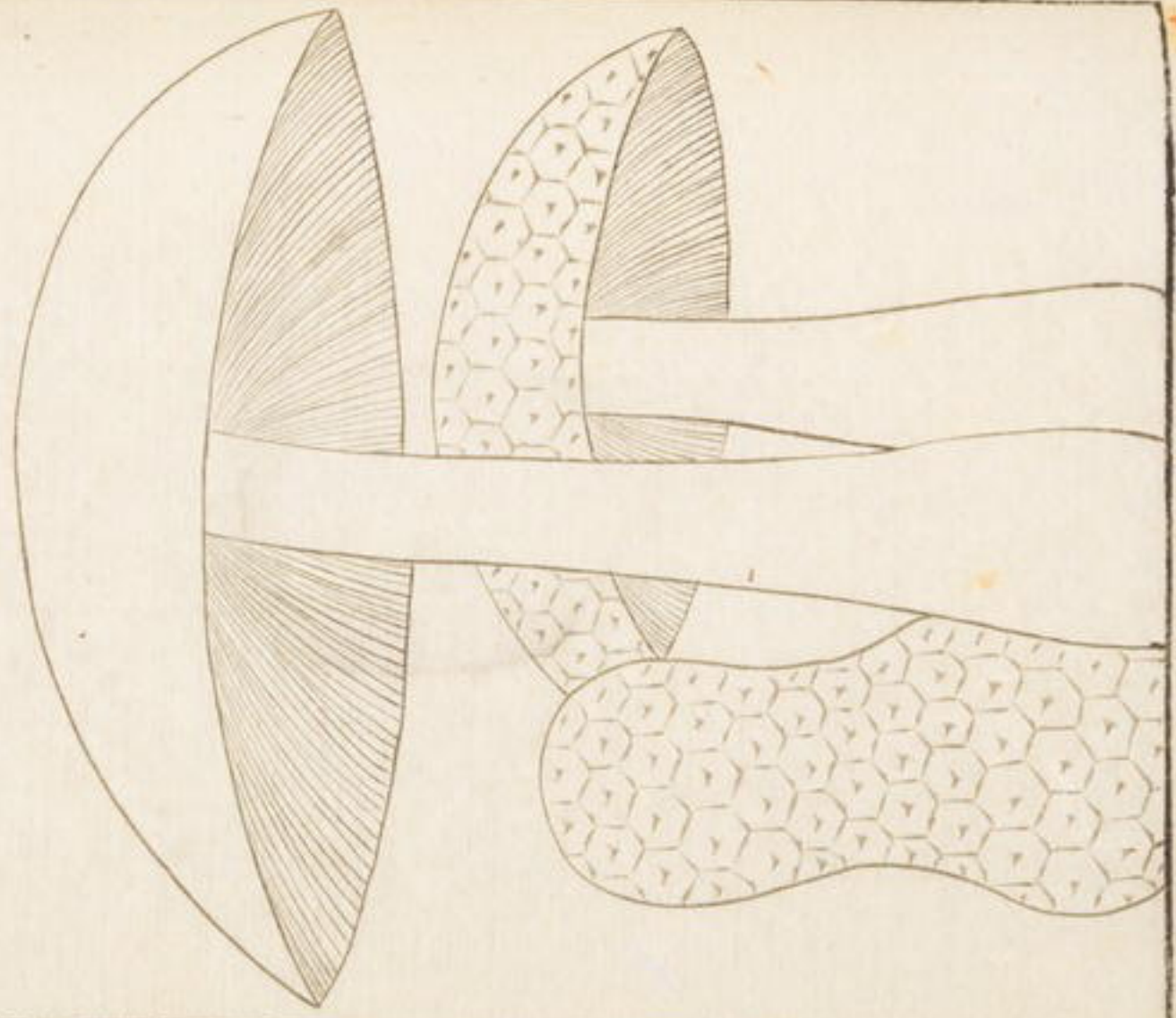
つゝ子

菌譜に載る同書小竹林及
道傍所生皆あり其間又許蓋
色莹白色味淡薄なりと云



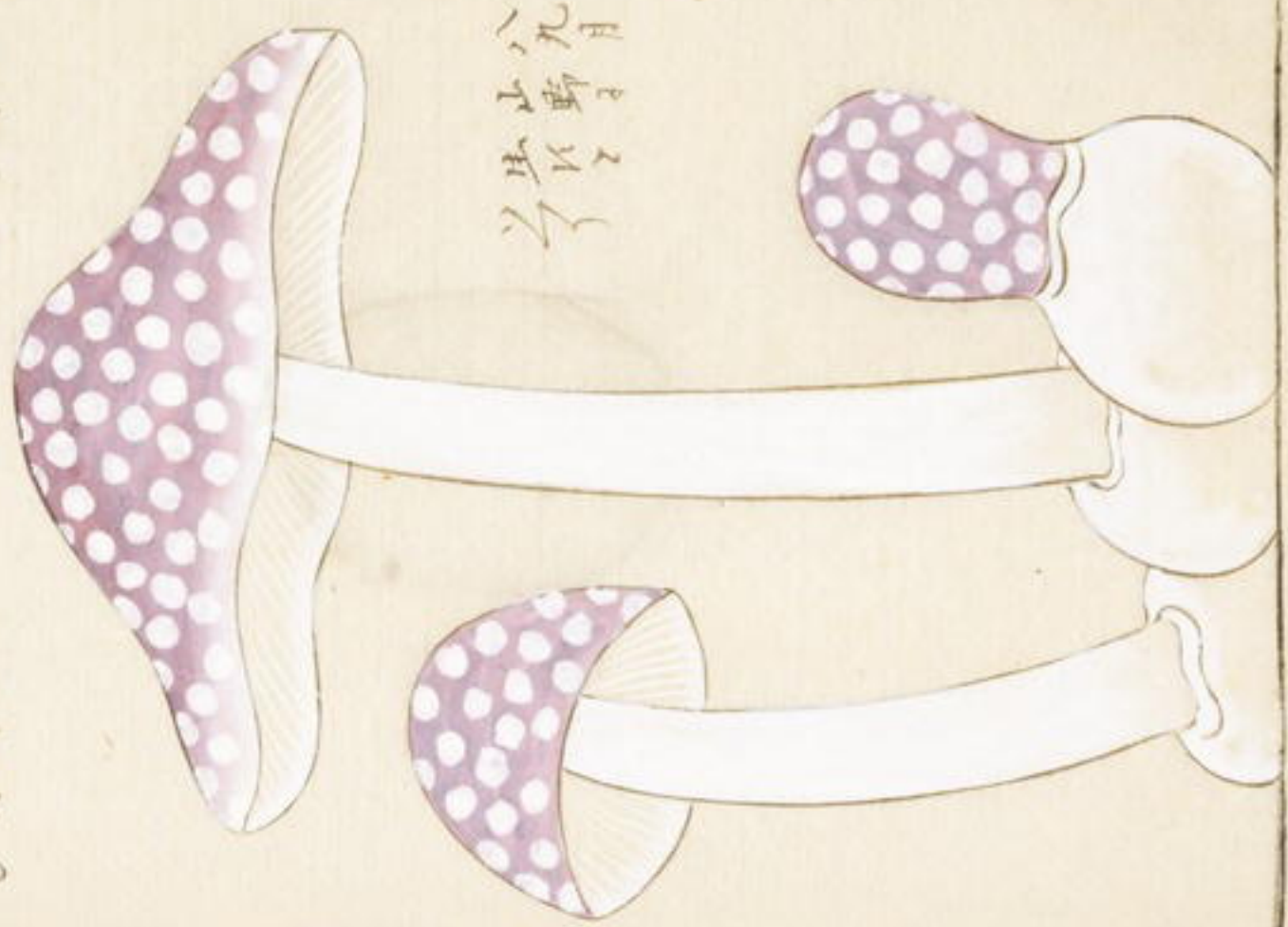
つゝ子

廢物寫
生小載
の因



くちけ

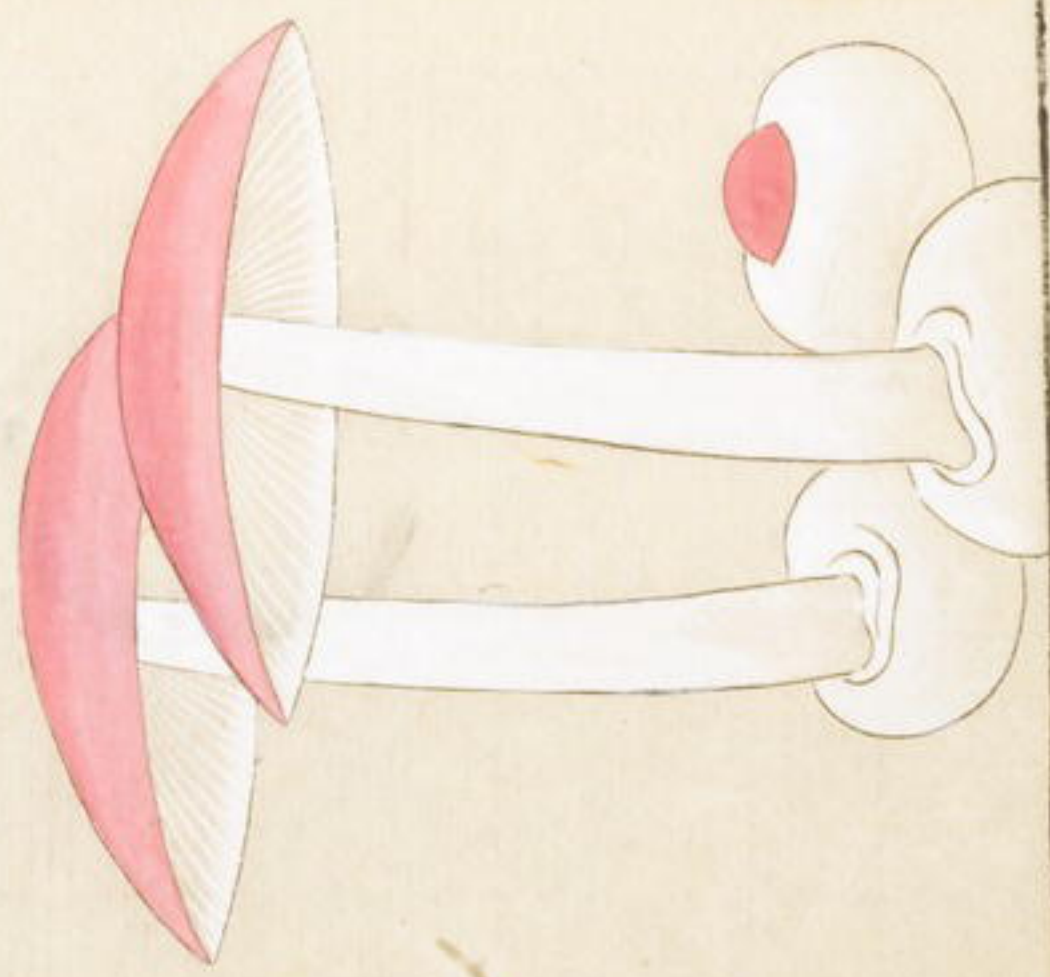
廢物寫生
小戴園菌
史小嫩張
豆二三寸大
有四五寸小
至五面紫
白莫有脚
長一尺余
脚と前と
管洋白初
生白莫甚
麥漸長漸
陳久食
吃吐しむ



八九月
山野
生

あたい志

廢物寫生小戴
園產物寫生志
りし似長脚白禰
色又淡赭色日看
あり底白く摺紋あり
一種小傘小く淡
黄長脚微白者
あり質甚數共小
食可といふ



二一五

廢物寫生小載圖菌中微白微
微褐色と帯入徑二三寸長柄白色
故大小至實菜なり、積易と云



たいつきなけ二種

菌譜に載る図同書小
山林道傍に生け状句
傘なけり如く蓋思ふ
り、似て食に
へるなり

ハハムナキ

同書に載る図同書小山林
原野に生け状句なけり
似て蓋小なり色紫藤の花
り如く蓋上指りて白森り
食へるなり



ノミナ

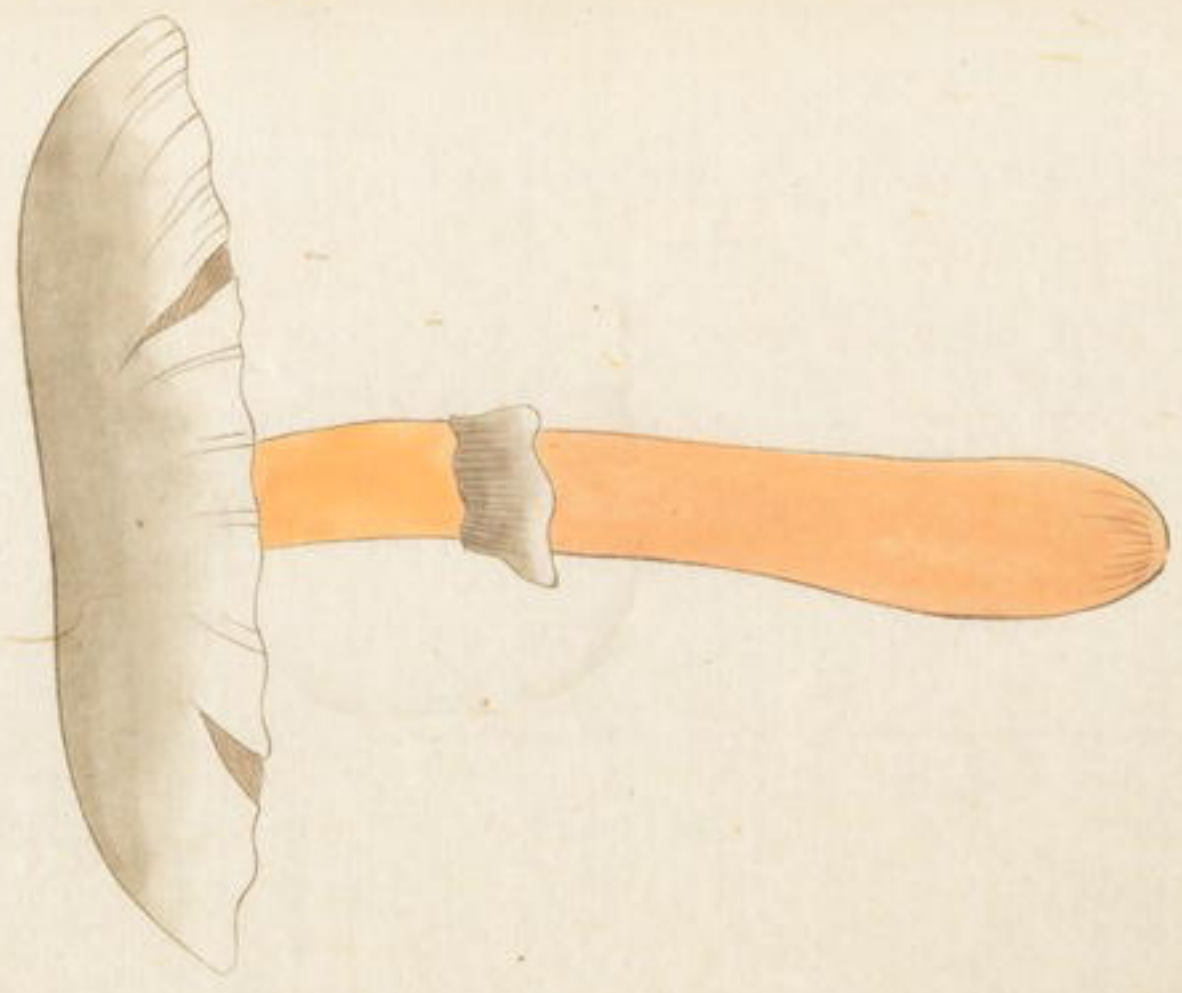
ノミナ

菌譜小載、同書小狀も、似て
堂の長さ七八寸、蓋の廣さ八九寸、柄の下
鈎の如き、ふちあり、蓋赭褐色、堂淡赭色
毒あり、食すべからず



ノミナ

菌譜小載
同書小
在る、状、重
る、似、大、毒
あり、食す



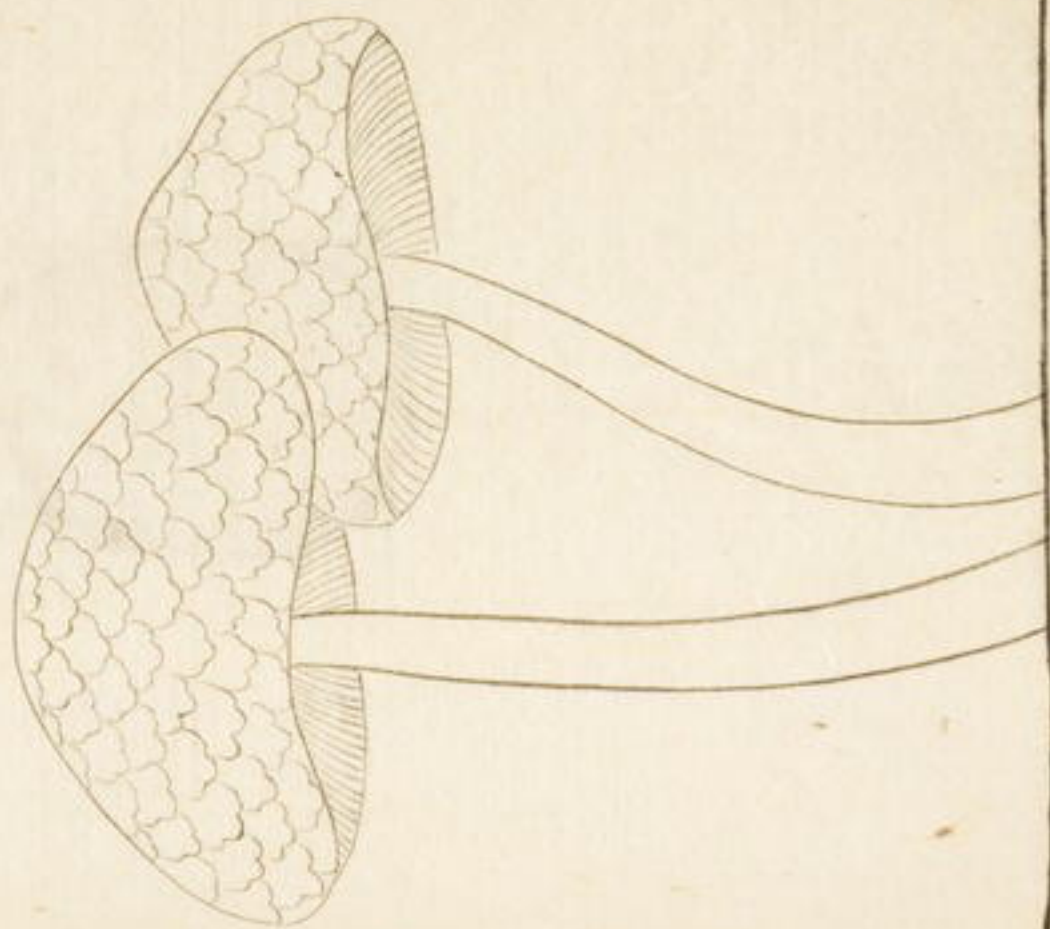
シシクスノチク

物之印を戴く圖



すし

廢物寫生
載圖商史
樹蔭及糞堆
日中亦生以御
長一徹張二三
寸小至寸面淡
黑鱗紋有
前白質柔
食堪以之



たすし

菌諸小載圖同書
狀稚即如蓋玄
之白色緣短有
之折以裏黃色小毒
有食之

はし

廢物寫生載圖商
史小拿其皆淡黑鱗
羽乃如者有蓋肥
拿牙形覆盆如名
曰之其種有之
之



キノコ・ナゲ

菌類 生 小
戴 図



キノコ・ナゲ

菌類 生 小
戴 図

キノコ・ナゲ

菌類 生 小 戴 図 同 書 大 小 脚 長
く 成 別 け 補 生 牛 或 蜂 蟻 眼
を 作 或 細 鐵 穿 孔 を 作 以 玩 白
の 香 あり 白 く 灰色 帯 あり 香 あり
灰 黒 あり 白 き 其 灰 あり 香 あり
底 黄 色 せ 命 あり 有 あり 之 を 碎
真 氣 あり 七 八 月 好 古 墓 間 生
以 支 毒 花 刺 設 之 以 食 之
人 を 殺 之 之

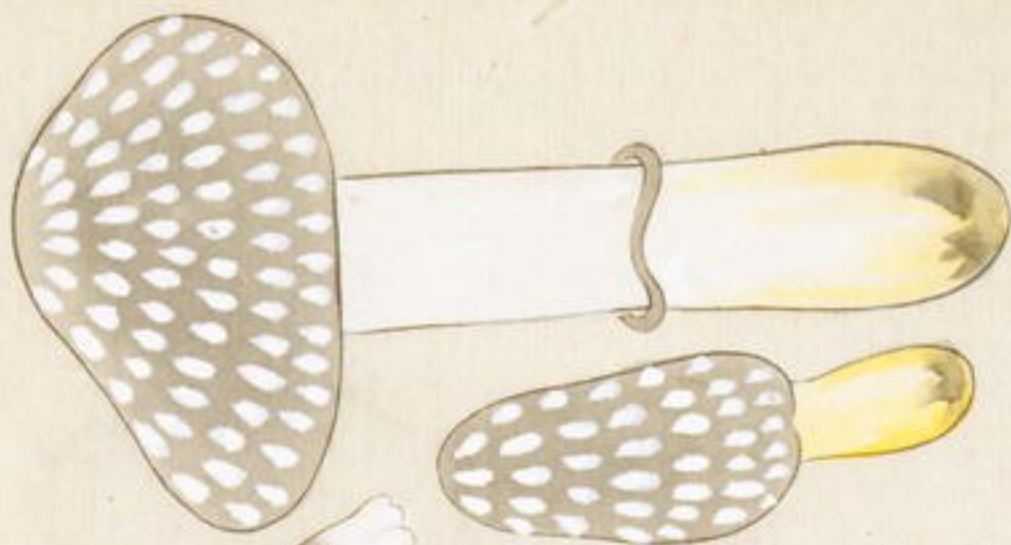
キノコ・ナゲ 二種

菌 譜 小 戴 図 同 書 小 蓋
大 小 灰 黒 色 蓋 小 赤 色
あり 蓋 あり 白 星 あり 大
毒 あり 人 を 殺 之 之



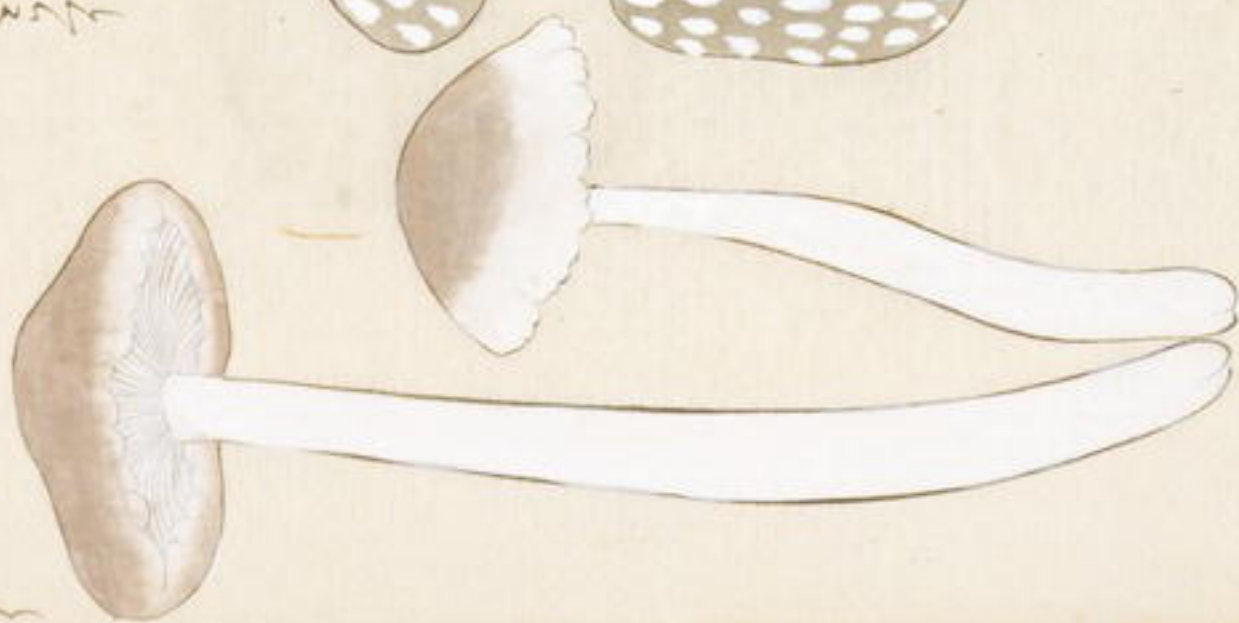
しんくたけ

信陽菌譜小載多圖
 同書小其大さ他菌小
 果へ形状恐ろ(きやう)
 名目以古く害あつと云
 近時之を喰へる
 あつ害あつと云



しんくたけ

菌譜載多圖
 同書小其大さ
 しんくたけに似て
 茎の高さ大
 寸其色赤
 しんくたけに似て
 あつ今之數大



しんくたけ

菌史小
 載多圖

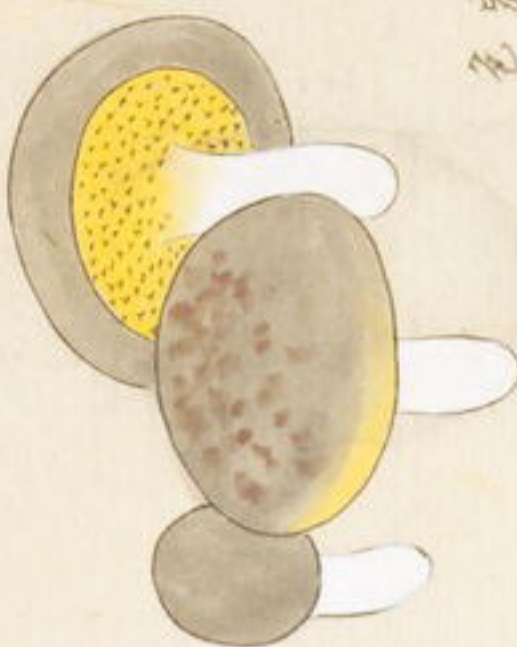


一種

楠本氏
 図

あらいんち

信陽菌譜に載る
 同書に云ふに、不
 り、似て稍異、味
 に、滑り、食ふ、地、
 其、微、滑、分、故、名、
 と、之、菌、史、に、俗、名、
 中、山、其、に、赤、褐、色、を、
 あ、り、亦、可、に、外、腹、と、
 う、と、食、入、加、賀、金、
 々、人、に、之、を、と、け、
 と、い、ふ、と、い、ふ、



あらいんち

同書に載る、同書に茶
 家、好、に、料、と、市、に、赤、
 色、囊、の、蜂、窠、腹、と、い、ふ、



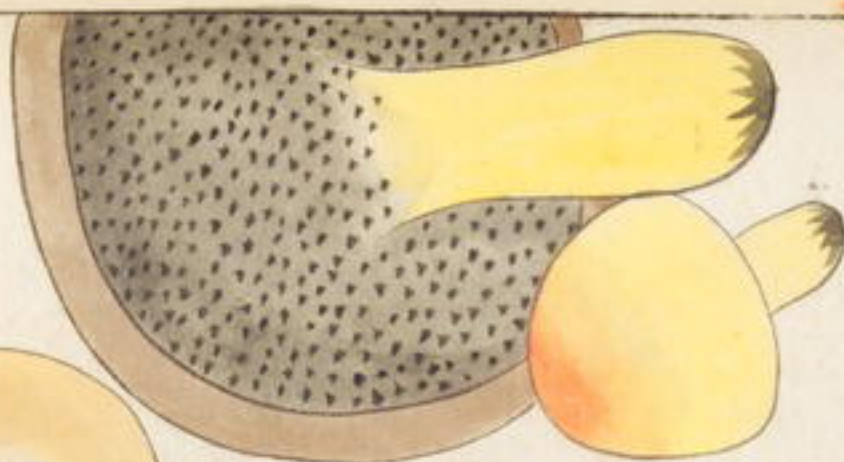
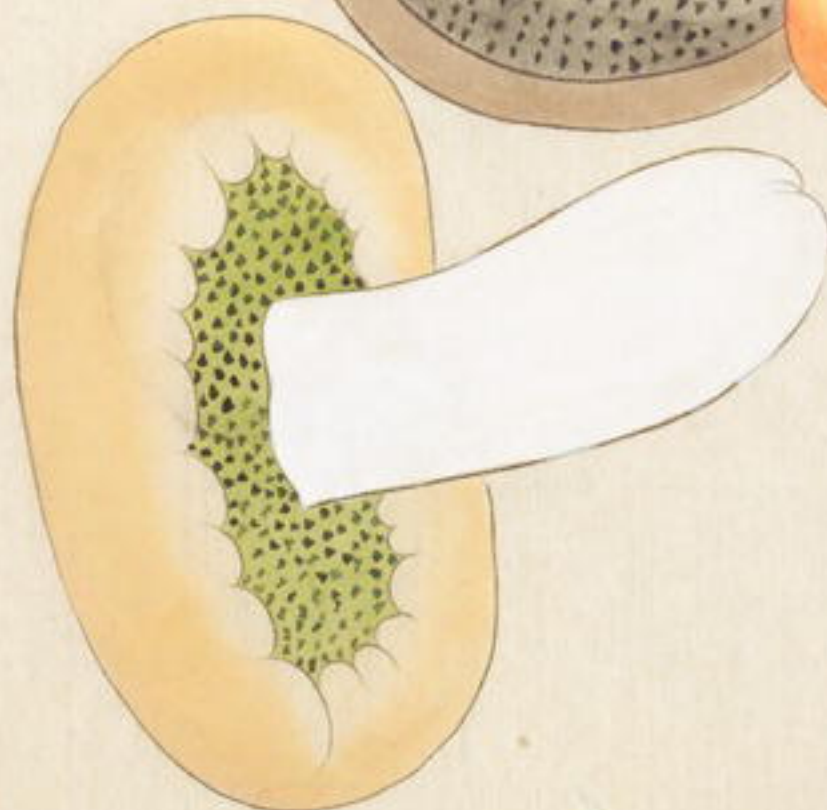
あらいんち



信陽菌譜に載る
 同書に云ふに、赤、褐、
 色、や、す、ら、う、の、類、に、似、
 た、り、故、に、名、に、背、反、
 色、味、に、淡、美、と、い、ふ、

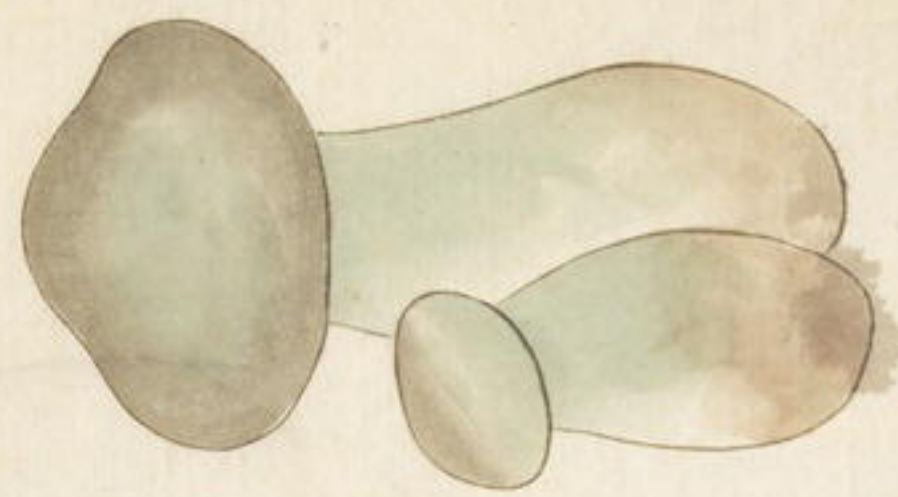
あらいんち

菌譜に載る、同
 同書に云ふに、
 玄、へ、と、い、ふ、
 の、類、に、似、た、り、
 針、眼、倉、緑、色、
 の、に、似、た、り、
 甜、淡、と、い、ふ、
 小、毒、と、い、ふ、



ととやといち

信陽菌諸小戴も図
 同書小入時旋場と名
 つく肥實灰色味心淡
 へんし又云一種苦味
 を帯ふ者毒ありと
 之



とといち

菌史小戴も図同書小
 黒いち小似て黄白黒
 き斑と宛と虎の斑又
 小似て背白く玄精
 色鱗ありと之同
 書小毒菌の類小



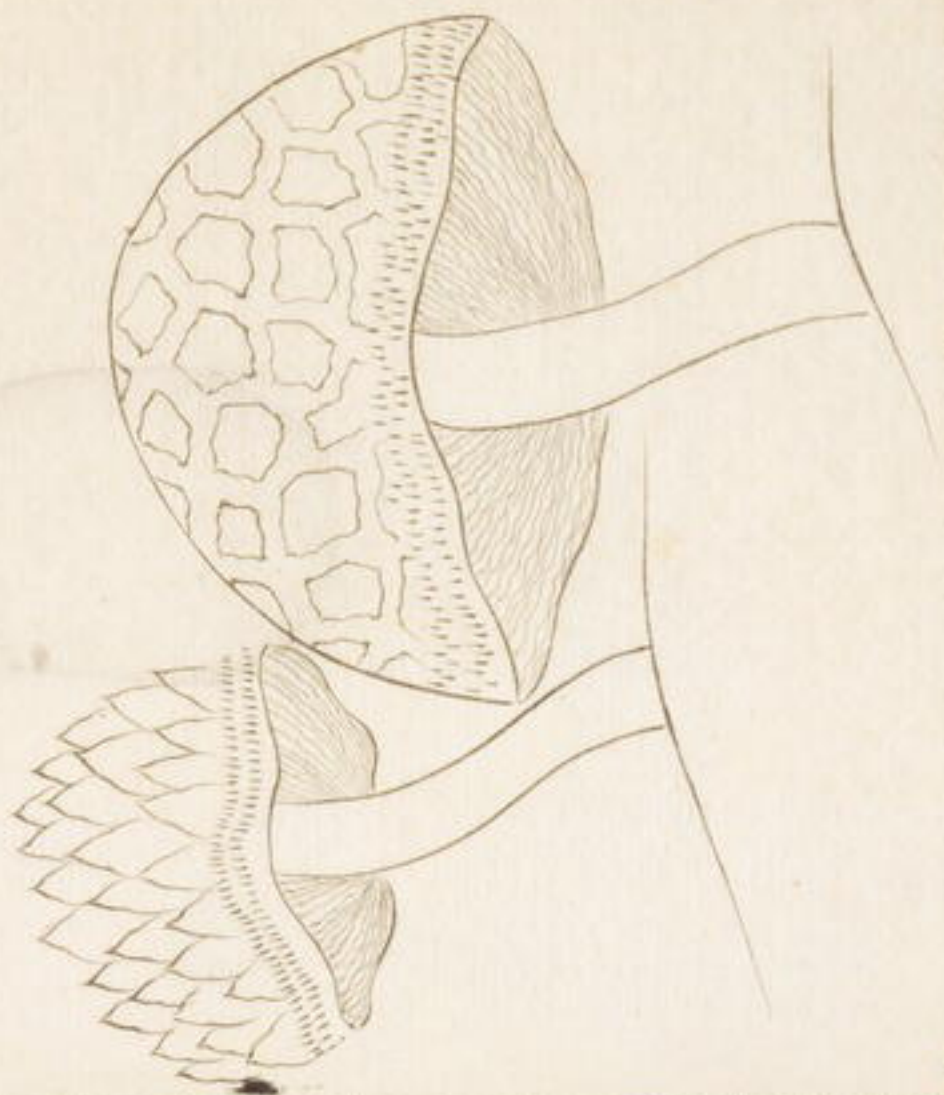
黒いち

原物写生小戴も図菌史小
 黒き微く背白く蜂窠
 眼も微く玄小鱗あり
 白色粘滑秋の山中小
 生いとし同書小毒菌
 の類小入



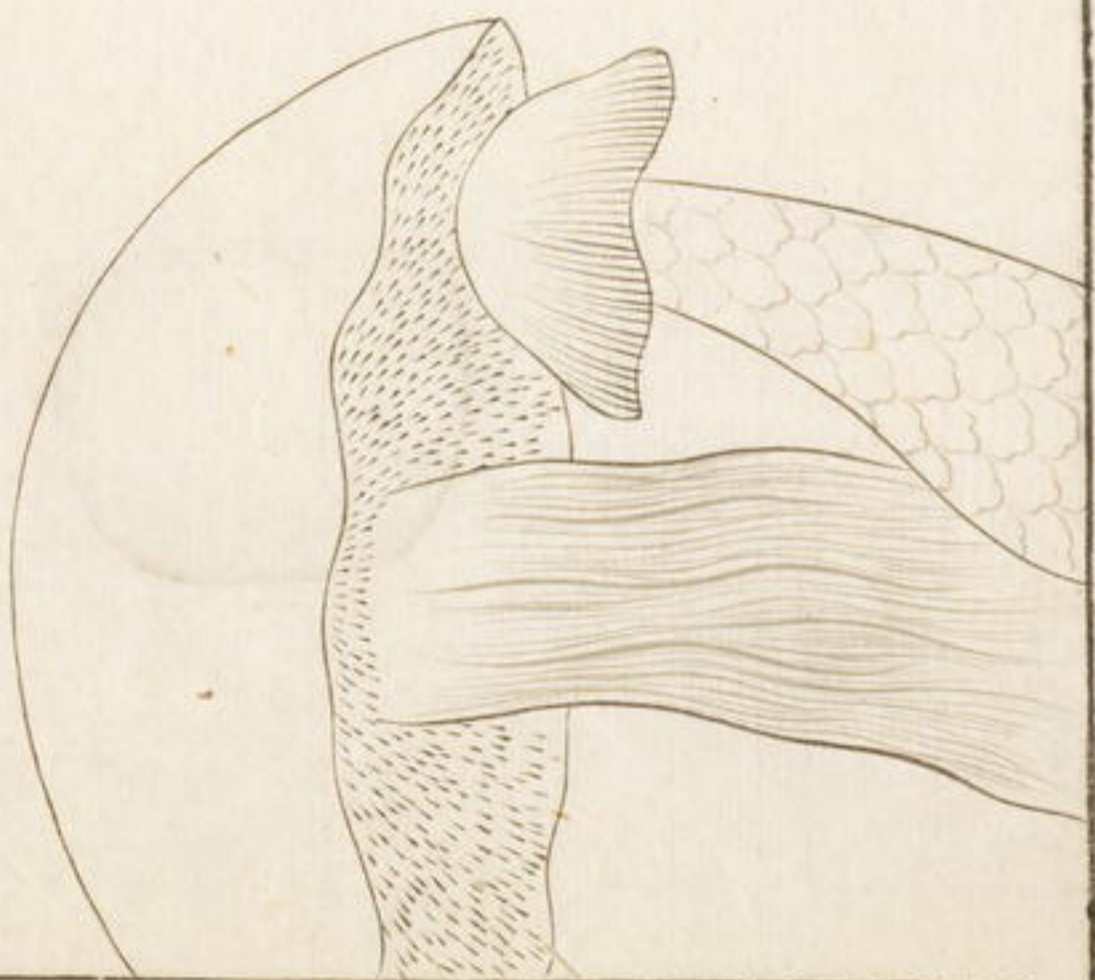
おのゝち

廢物寫生小載
 菌史小拿ありて甚
 厚灰質林段羅網
 如く背淡黒玄緒
 名者山中濕知日同
 小方又金玄替宛
 黒く一面排灰と作
 なるありと云



おのゝち

廢物寫生小載
 菌史小實眼
 一面黃褐背茶
 色蜂窠眼より玄
 灰色深黄鐵紋
 鱗の如く山林中
 生る之同書不
 菌の赤類も出



おゆいりちり
一種

武列雜司
ヶ谷山中水
出つ食用と
るさる

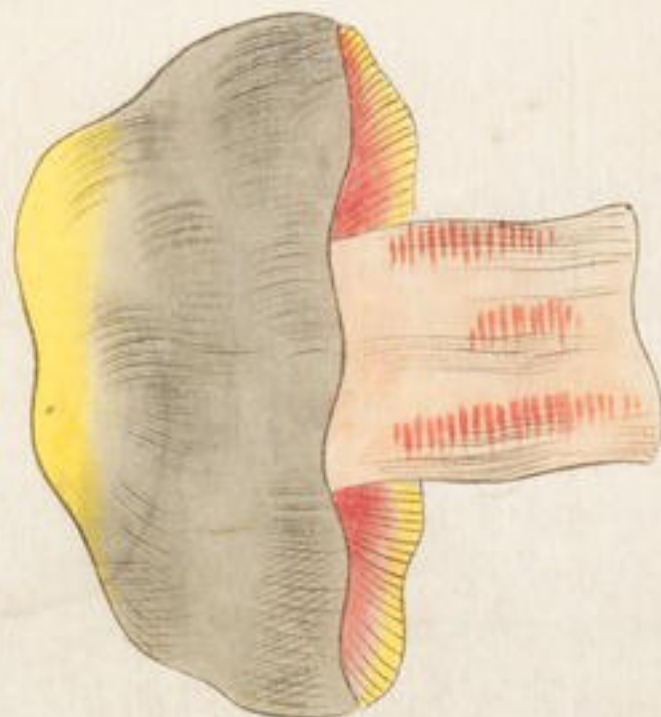
同

武列道
産山内
以



同

物印代
載る圖

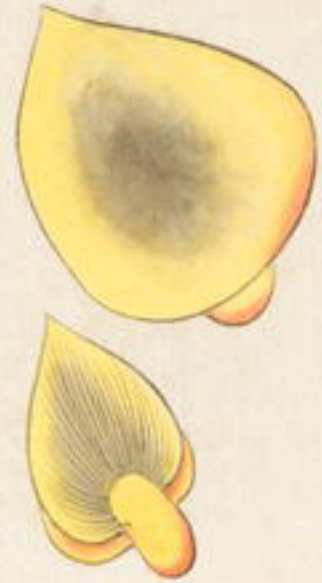
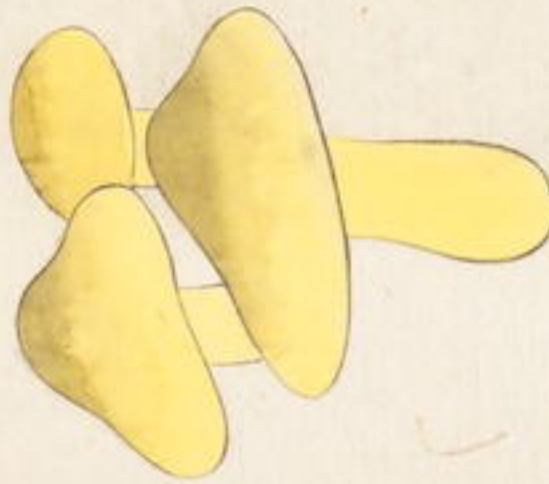


日光菌

日光菌

信陽菌 諸小載
圖同書小 日光菌
器小盛 蠅 必死
七日 醉死

日光菌
諸小載
圖



日光菌

日光菌

日光菌

武列日產
毒あり食
へん

菌諸小載 圖同書小状
日光菌 如く 毒あり食
へん 飯 小 報 金 上 小 載
蠅 必死 此名あり



天花散

不詳

5

本草圖譜卷之五十九 目錄

菜部 芝類

ゆきうらち	二	ゆきうらち	一
ゆきうらち		ゆきうらち	二
ゆきうらち		黒うらち	四
おみうらち		同	五
同 一種		同	六
一種 物却の草の図		まぐさのふ	七

もいとうりせ	まのふせ	八
天花草 詳ふせ	蔞薺草 ふせ	
羊肚菜 集 詳ふせ	ひふたけ	九
同	ろろ	十
むきたけ	同	十一
牡丹 け	めうたけ	十二
ゆきたけ	むせう	十三
るんるんせ	雞 ねづけ	

めうたけ	十四	同	
めうせ		めうたけ	十五
めうたけ		めうたけ	十六
同	十七	めうたけ	
同		めうたけ	十八
つどまひ		めうたけ	
同	十九	めうたけ	
めうたけ		同	二十

ねたけ	七一	同
ちりふ		舵菜 ちりたけ
た 菜 まねの かき	七三	同
まねたけ 一種	七四	同
みつねたけ	七五	同

本草圖譜 卷之五十九

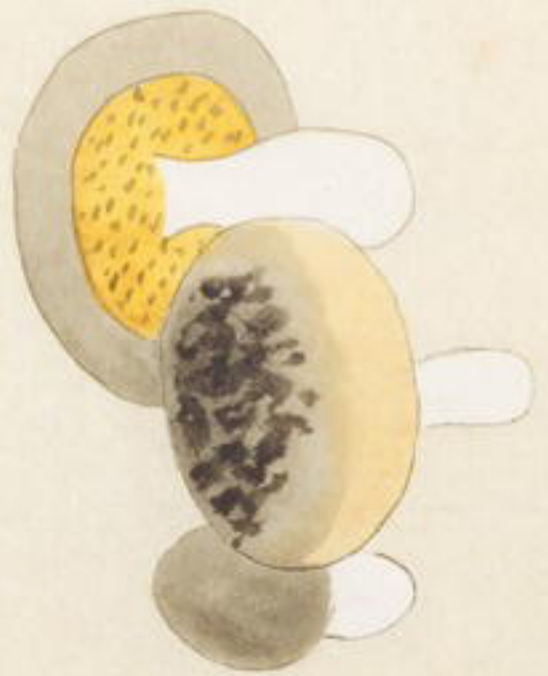
東 都

岩 崎 常 正 著

菜 部

ゆえういふち

信陽蘭譜に載る圖
同昔にふりやうふ
似て稍異なり味は決
りて食ふに甚く可
微滑なり故に名づく
といふ蘭史に結縛
葉中に生に赤褐色
斑あり亦可ふ外膜
もくも食ふに可
のふれをふえけ
といふ



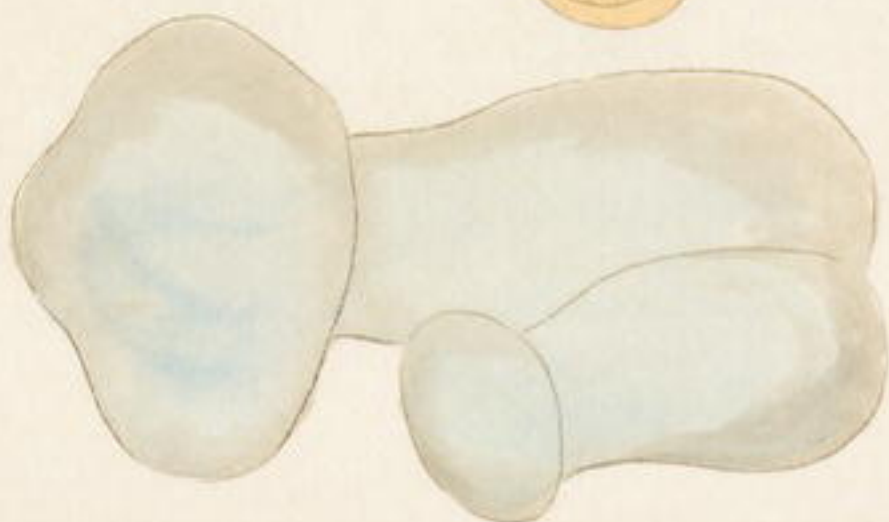
あじいころも

信陽菌譜に載る菌
同書に茶家好く科
とあり表黄赤色裏
小蜂雲眼ありと云



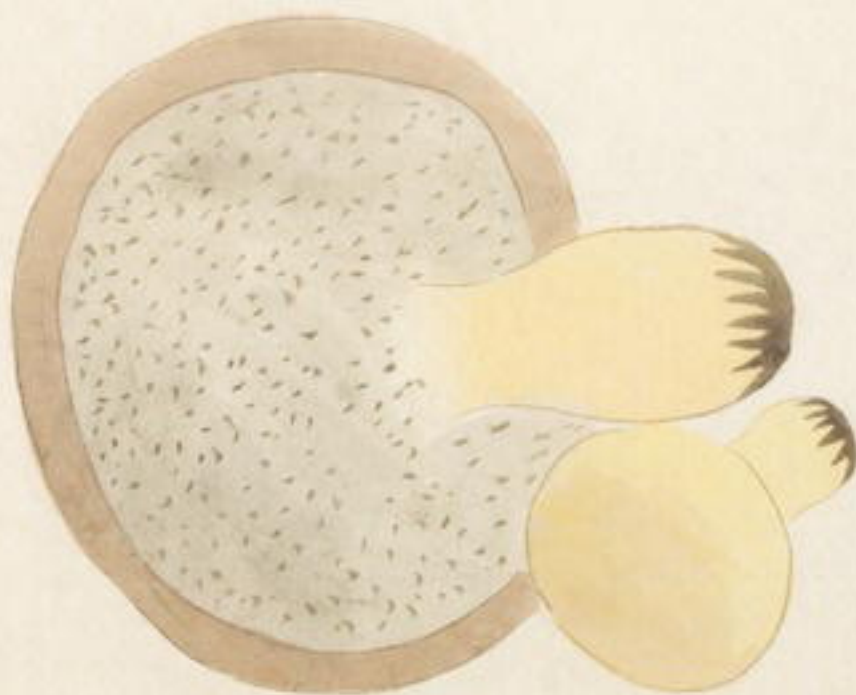
もとふもいころも

信陽菌譜に載る菌
同書に又時候妙と名
づく肥實灰色味が淡
へんところ又云一種若味
を帯ふところの毒あり
と云



やまどろいころも

信陽菌譜に
載る菌同書に
白茶褐色やま
どろの洞と似る
背灰色味が淡黄
へんところ



とろふいぐち

菌史小載の圖

同書小黒いぐち

小似て黄面黒き

斑あるを老虎の斑之

小似たり背白く茎

赭色鱗文ありと

了同書小毒菌

の類小入り



黒いぐち

皮物菌史小載の圖

菌史小黒き故に

背白く蜂巣眼を有す

茎小皺あり白色枯

滑秋の岡山中土に

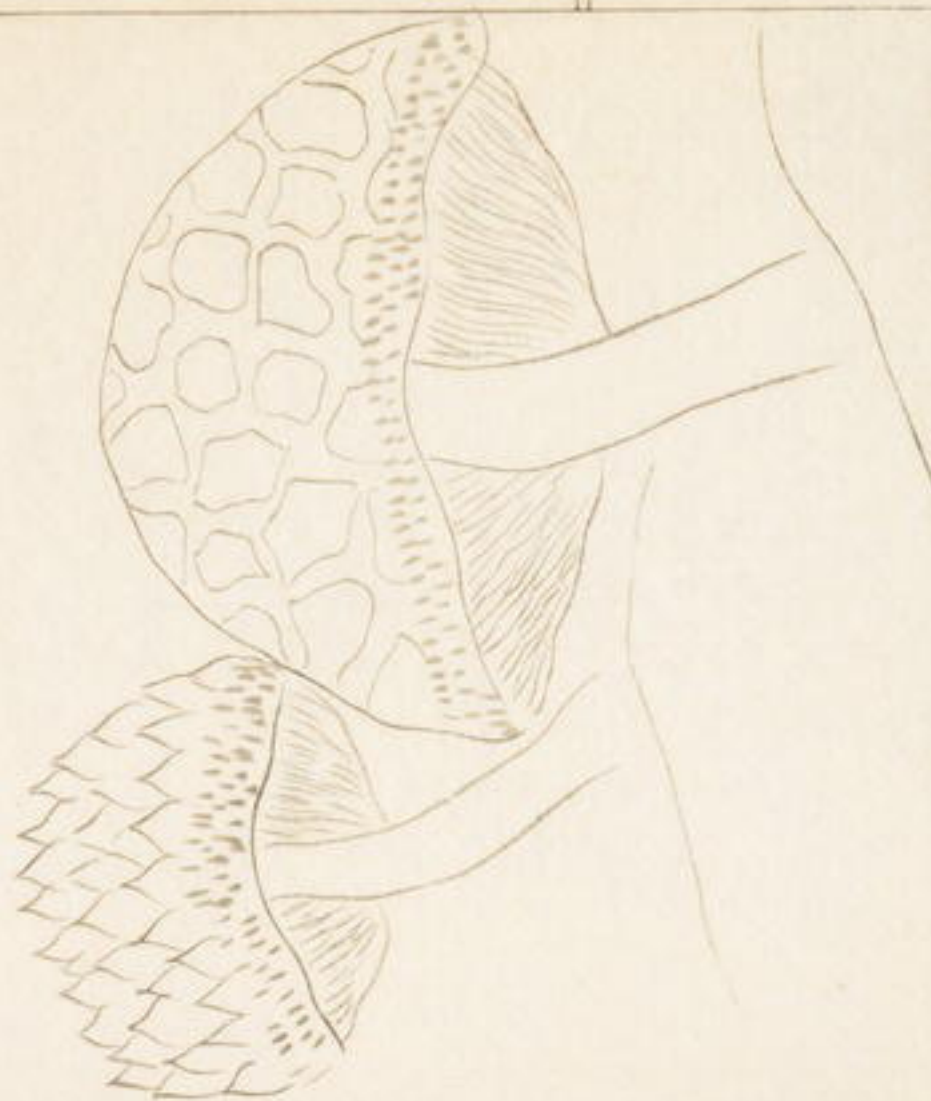
とて同書小毒菌の

類小入り



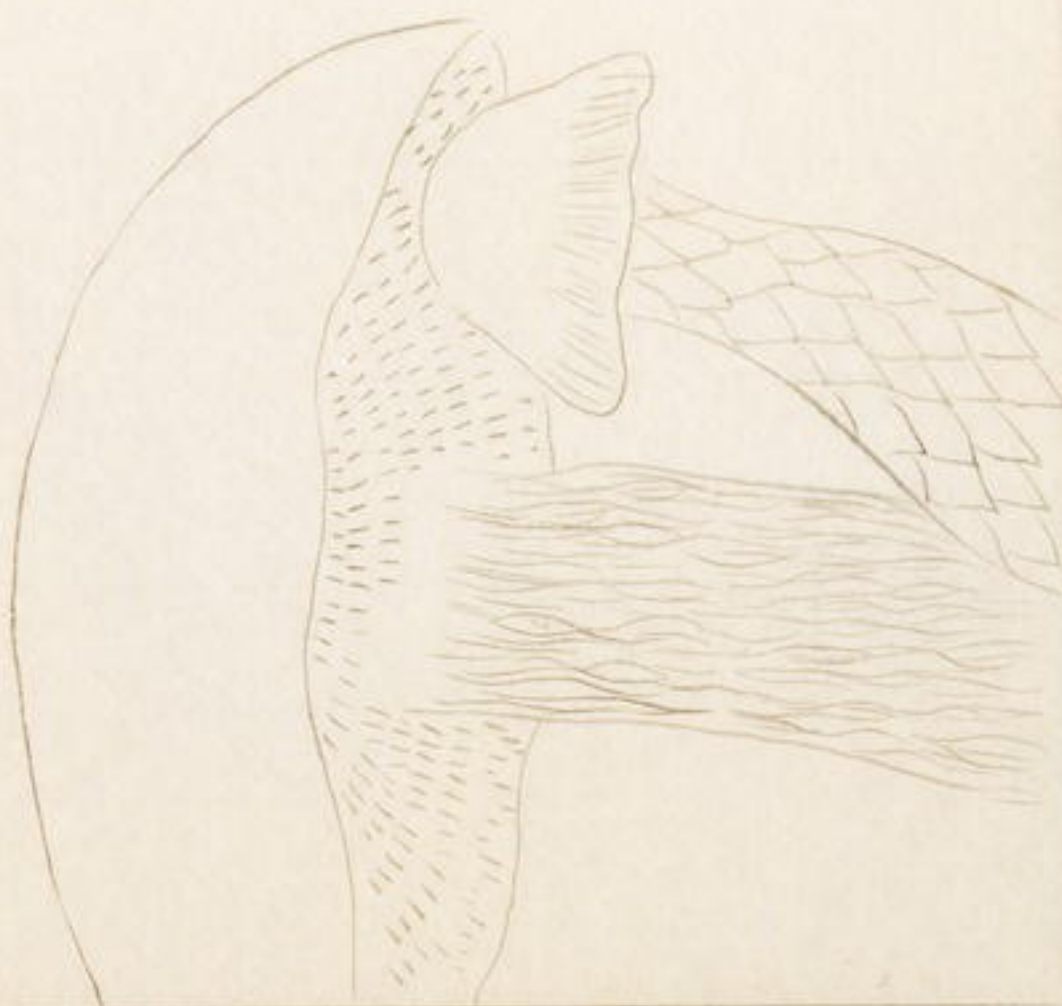
おふいふち

廢物寫生、載、
 園菌史、年あり、
 甚多く、灰質、紋、
 羅網の如く、其、味、黒、
 茎、赤、色の、者、山中、
 の、湿、處、の、間、あり、
 又、年、茎、皆、地、黒、
 しく、面、癩、を、お、
 とも、あり、と、く、



おふいふち

廢物寫生、載、
 園菌史、質、肥、
 面、黄、褐、青、茶、色、
 蜂、窠、の、如、く、茎、皮、
 灰、色、深、黄、雜、紋、
 の、如、く、山、林、中、に、
 いて、同、書、の、
 毒、類、も、出、ず、



胡不のろろ 一種

武英建司と名
山中の出る食用
と云ふ之片



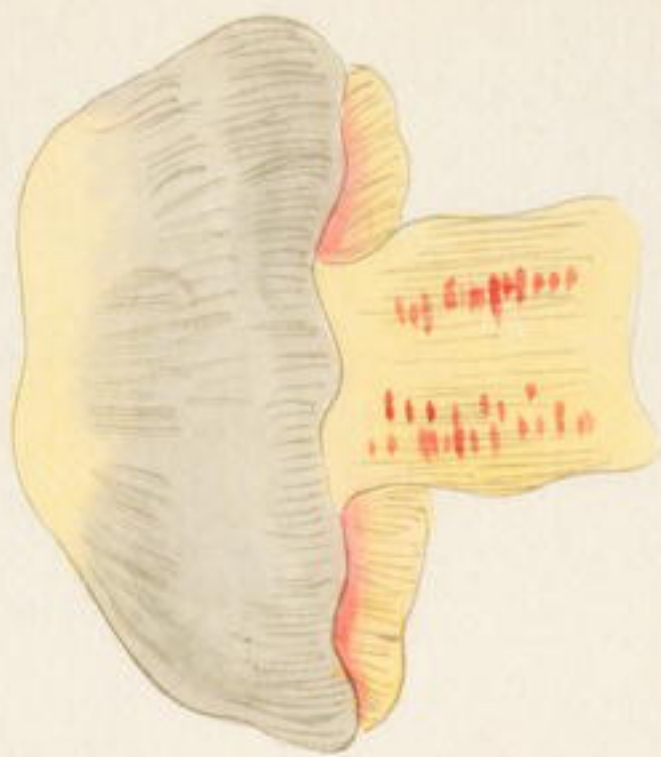
同

武英建司と名
山中の出る食用
と云ふ之片



一種

物印忙ふ
載る圖



まくらまのふ

信陽園譜不載
園同書ふとれも
揚々夢ふ窓々蝶々
れをふむ水解元
りところ



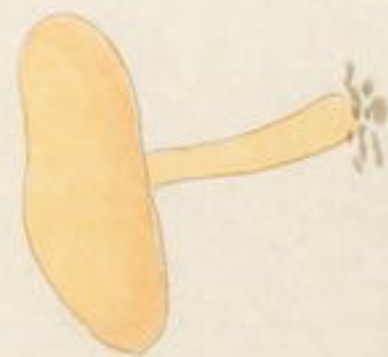
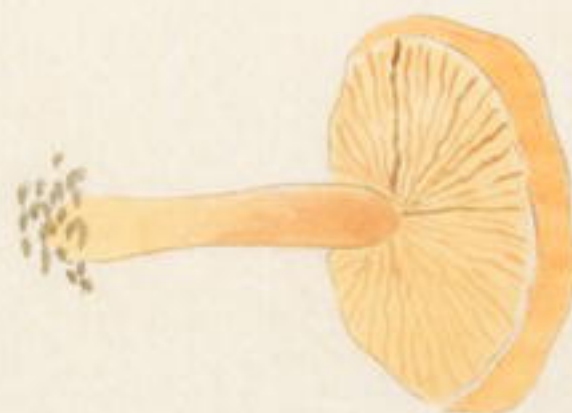
ふらんそせ

日光菌譜
載子圖



ふいのふき

武文の産
毒の金
（ふき）



天花草

不詳

磨菰草

ふろたけ

大和草。冬春の同樹に生れ人の指のふくまひに似て重り生れ毒あり味も
亦可ふなり本に生れ冬月には毒あり訛誤草花に曰これらうやう
清抄に枯木を殺す。却て土中につく米ありたり。白米をかくれ三月
の内、生れ

羊肚菜 雜 詳がら

ふろたけ

信陽菌譜

載圖



ひらけ

本氏の
園豊校の
産と云



ひらけ
本氏
園豊校



むぎにけ

肩過ふ較ら圓
前足亦形銀
香の葉の如くふい
にふ丘を孔、質薄
く色黄白微く黒
いと香ふ名のさそ
い柳の樹、弱株の二
小生、淡甘滑美
細く乾者江戸種
小貨とてく



むぎにけ

底物重三
小穀と圓



牡丹にけ

底物寫生不載圖面
 史亦一本教莖倫其
 生に補ひの名の形不似
 たりとて同書不底物
 寫生を引に秋の同山中
 振地小生に形花辨の
 世く層々とは生に之を
 せうが醋少調う食へ
 味ひ美と云一種黄葉
 して食ふ小塊に之



めいけ

底物寫生不載
 圖面史亦同書
 引に秋の同所不族
 及び附の階小生に
 牡丹蘭小云又白色
 のとめめう有地く
 稍梅落根の如く
 して



ゆきりけ

底物雪生小軟、固
 菌史小同書を引く
 舞凡け小似る形内く
 背小端紋なく一本
 旗生一並皆横斜
 小く其色淨白雪
 の如く故小名く素
 則灰色小変に林の間
 山脈の標地生じ又
 青黄及び灰色の
 ところへ集ふ凡に
 とく



ゆせつ

日光菌
 譜小軟
 図



えんりんすきしき

同書
新圖



雞 糞

ねつしき

何すこひし 二種

信陽園暗不軟
園甚ふく形流の足
や似く国こく水も
おふと云文二種あ
重岡者妙法美
上田とふれ酸味を
市くものれに魚
（澤下凡距一軒）
てこれ倉六宮ふ
く下田とふれ入る
を録と欲はとふ



わづもいせ

日丸蘭譜
花図



わづもいせ

日丸蘭譜
花図



毛ふみ

南史
栗氏の
苑を
引て
裁



不ろまにけ

陶史
載し圖



不ろまにけ

陶史に載し圖
 同書に山中陰處多
 く生じ一茎令く数
 十條を成し花の
 状に似し白色微
 し黄褐色を帯ふ其
 質柔脆なりと云
 へり云々



ちひなけ

信陽園譜に載る園
同書に其他の園と異
ず嫩黒く柄素白
の者二品とある時は
脆気なりと云ふ

ちひなけ

同書に載る園同
書に嫩灰黒く
柄素白の者時は
脆なりと云ふ



むらさき

むらさき 紫

信陽園譜
に載る園

つゝし

信陽園譜に載る
園多くつゝしの下
にこれ故に名く
嫩し若草を常
下と云ふなり



まいたけ

日光蘭譜
お蔵の園



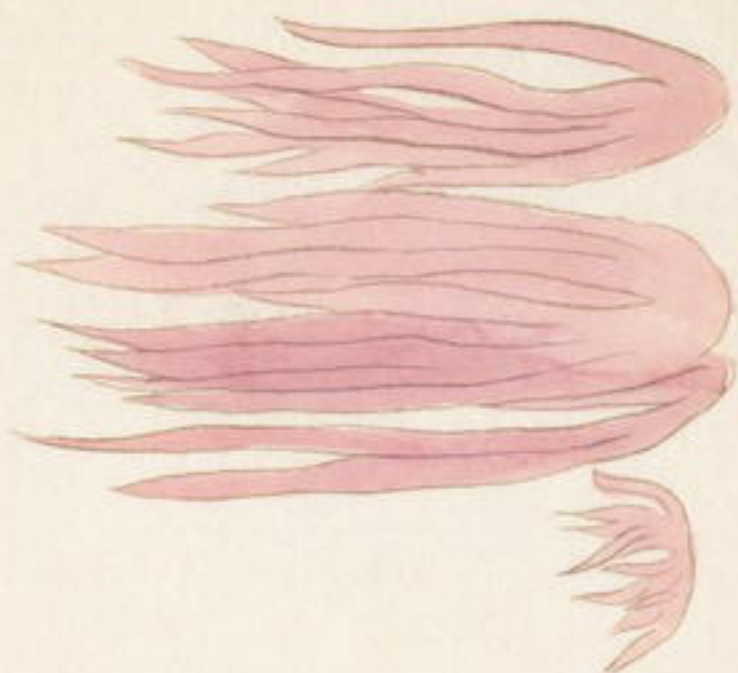
まいたけ

青過お蔵の園蘭史不形銀
香京お似て不縁脚肥春
膚一疊一と高き天命不
主同お三丈の者ありむ奇と
色紫色お有る色蘭此凡蘭
を主一皺紋あり櫛と如く色純
白これをも有るお加て赤一黒
色赤銀花春然れとも微一色
氣あり蘭これをも純く咲く冬色
佳れと地蔵をもその世景鮮美
以て是のふたと有る一秋而後
山中朽葉根上お主れとあり



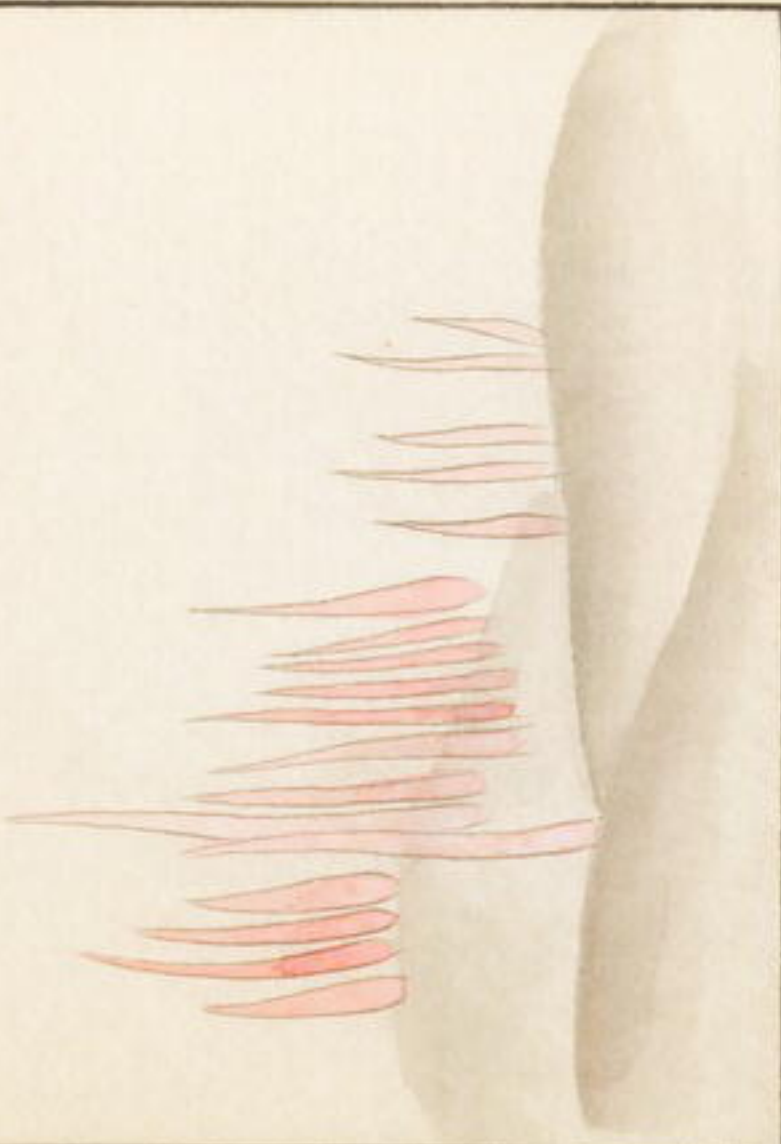
せんかゝり

蘭之葉
圖に書く向
島然葉の祠
後ふまゝ



せんかゝり

信陽蘭譜之載
図に書く味可
ちふまゝ



ちりしけ

日光菌譜
載し図



ねろにけ

着通し載し菌譜
小形葉の葉の如き元
以て名づくふふとの
至天の三四寸葉白灰
色紅黒葉葉淡褐の
数色あり板板の如し
花より葉よりなり



ねづけ

武蔵御成
の産



五里たけ

蘭史に載る蘭
同書に之形の似
たを以て名づく
一処の幹に五六
尺の定か灰白微燭
散色あり風味麗
蘭に似て精者なり
云々



蛇菜

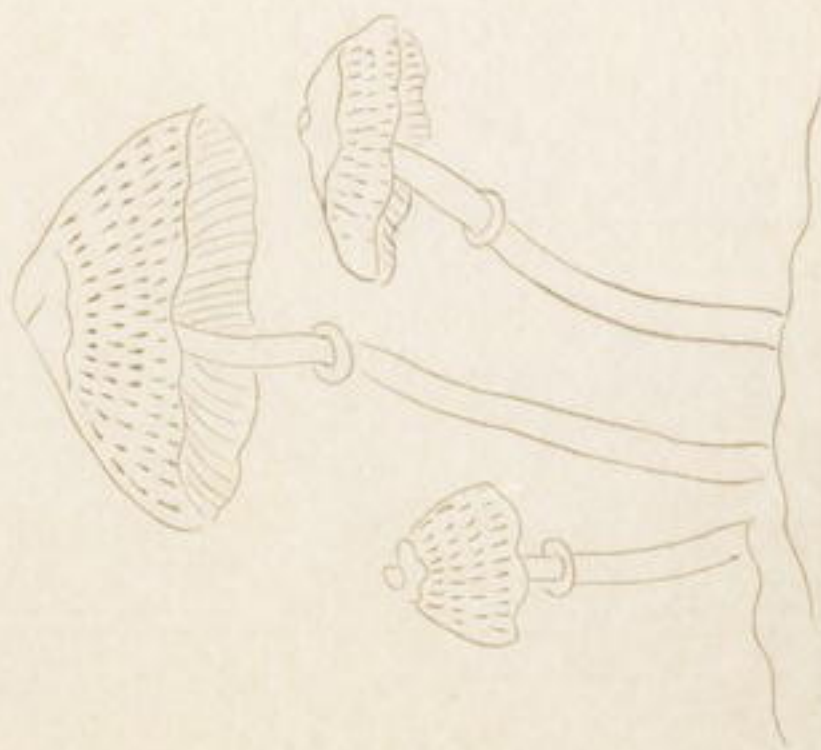
かぢだけ

國文云即ち蛇の上を食ふ蛇の蕈一種ふもれとて田村氏云々一、
蛇の食ふ蛇の上を食ふと云ふとて此品のみ目撃これの國文に

土菌

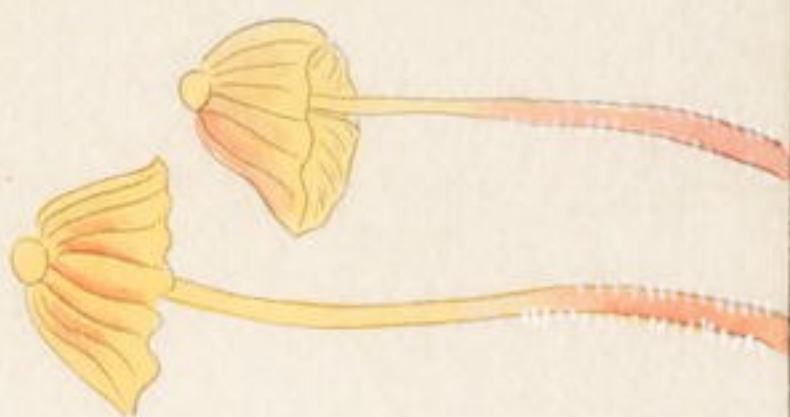
まつねのうららき

底物寫主
お蔵の園



まつねのかんざ

看過みねの圖



まつねの一種

菌史の載る圖

日書に四月に記す

ア



きつねたけの一種

菌史子
載、園



きつねたけ

菌史子載、
園月書子四
月雪と云ふ



まつねだち

菌史小載圖



本草圖譜卷之六十目錄

菜部 芝栢類

仙人帽 まじりし	一	志し し
虛無僧 だ	二	あ あ
あ あ		あ あ
あ あ	三	同
同		く く
同		火 火

同		一種	十四
一種		一種	
志 し 也	十五	藿 くわ 菌 くん し	
即 即 也		蜀 しやく 格 かく 録 録	
即 即 也	十六	つる つる 也	
つる つる の類		地耳 ちじ し	十七
不 ふ 也		石耳 せきじ し	
不 ふ 也			

本草圖譜卷之六十

東都 岩崎常正著

菜部 芡せき類

仙人帽

まぬねだけ

武州八
王子山中
まぬね
もの



志けしけ

菌譜に載る圖同
昔も帽茶褐色其
衣薄く白色根下
淡紅色山陰樹下
まぬね



虚無僧しけ

まぬねしけ

京師
方

志けしけ

菌譜に載る圖状
戴帽の如く全く形
白色根下茶褐色
帽衣も薄く緑
細の如く好く座置
地まぬね



あこがしけ

楠本氏
の圖



おなふたけ

菌史

載る圖

おなふたけ

武州道灌

山を食

まきとを

期に



おなふたけ二種 大毒

香蕈の
如きのもの

菌譜に載る圖同昔々平原荒草下よ
生るものいふ地を以て又一種石曾根名
等の朽木横倒しより生ずる状に硬
木耳の如く紫黑色夜間光り余野州
採藥の時友人標齋一同く山中の東樹の
立枯る生るものなるを香蕈の如く
仍てこれを得て家へ帰り酒散るも
食するもの皆腹痛吐瀉の急に棒皮を
煎し服するに新く解け故に知此菌の
大毒なることを余に幸うて免るるを
得る謹んで記す

木耳の如
きもの



つちやうけ

菌譜に載る圖同書る状ち大
 ちやうけは八月多く生ひ若人
 誤て食ふと毒一食ふと
 必り吐瀉腹痛或は狂走甚
 しく死に至る此の菌夜光
 糸を故に名づく又早助
 昔時早助がものらうと
 食ふと毒一食ふと
 死



つちやうけ 夜光糸 ちやうけ

ちやうけ

日光菌譜に載る圖

日光菌譜に載る圖
 ちやうけの本は生一
 毒一食ふと毒一食ふと
 一食ふと毒一食ふと
 一食ふと毒一食ふと
 一食ふと毒一食ふと
 一食ふと毒一食ふと



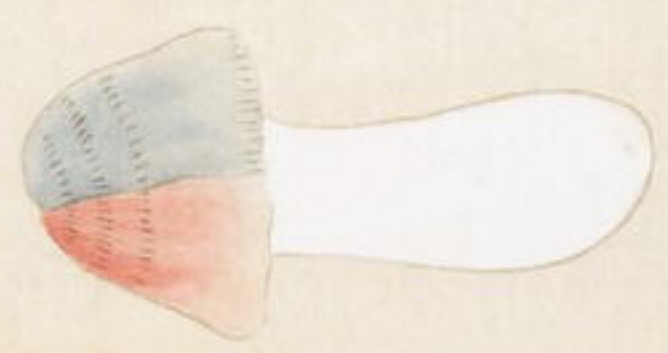
ちやうけ

日光菌譜に載る圖



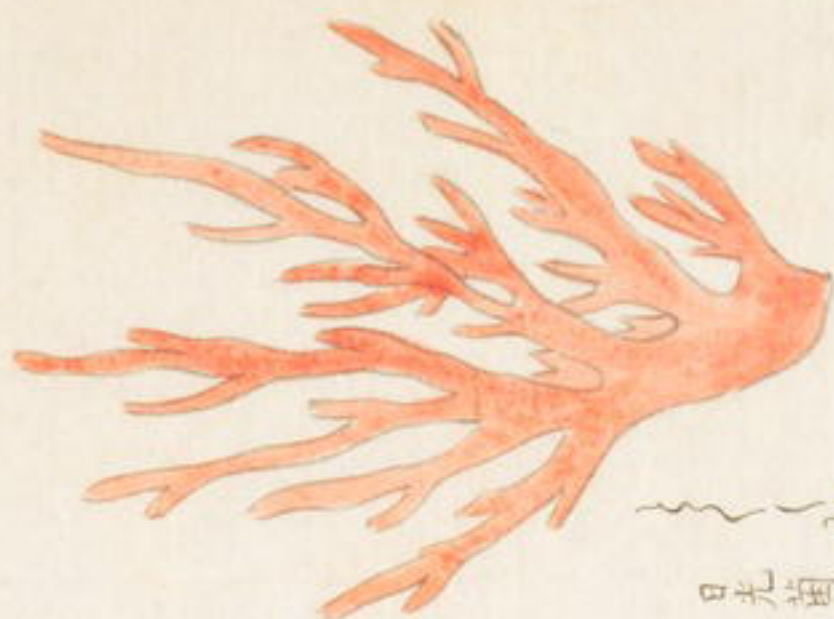
ちやうけ

菌譜に載る圖同書る其
 蕈半、青色半、紅色基白色
 大毒、人々を殺す



火焰くは

菌譜ふ載る載る圖同書同書は
状細條の珊瑚の如く其色
紅赤火の炎と云ふや
高さ三五寸大さふたふ
尺余と主る大毒いふや



火焰くは

日光菌譜載る載る圖

火焰くは

同書同書は載る載る圖
同書同書は其頭頭の
の如く紅色之根
黒色斑点斑点あり



毒くもくも

首過首過載る載る圖菌史は形くく菌菌似似て稍
小く色灰白好て竹林中枯葉堆成堆成の所所は生生ひ
これを食食は其毒人々人々して笑笑ふふも亦笑菌笑菌の族
類類なり者者なり

つるれ まくそくそだだけ

同書同書は載る載る圖菌史は好て積湿穢汚積湿穢汚の
中中は生生は馬馬くく多多き所葉叢生葉叢生の故故は名名く
微張て甚薄く中微く尖る茎瘦鬆茎瘦鬆虚
西灰黒色相と茎皆白く于此觸觸れれ則
毒のくも熱熱く腫痛を致し人且て
むはむはむはむはと名名く



シメジ

シメジ

信陽菌類
載る菌類
のよきもの
食する者
味淡く



シメジ

信陽菌類
載る菌類
のよきもの
食する者
味淡く



シメジ

菌類
質稍硬く実者色黄白
二種なり或は味苦く其
毒あり比より稍浅

シメジ



シメジ

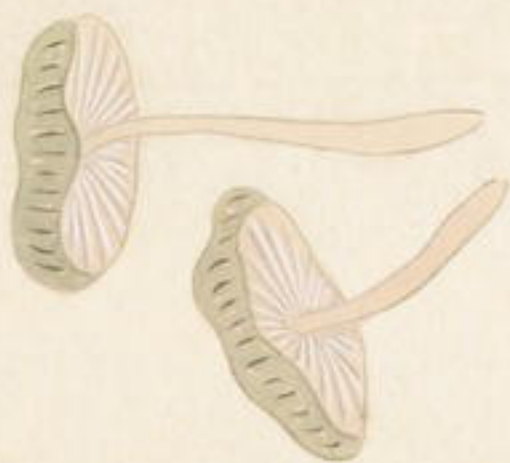


いんげん

楠本氏
の圖

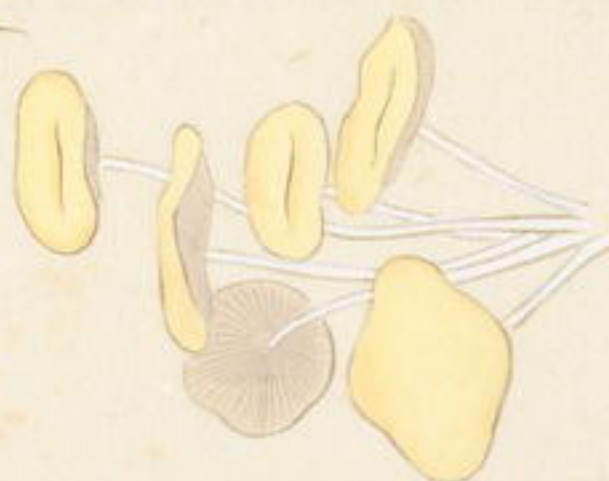


いんげん



いんげん

菌史
載る圖



いんげん

同書
載る圖



一種

楠本氏の
圖裏面の
きの粉
うろの如
し

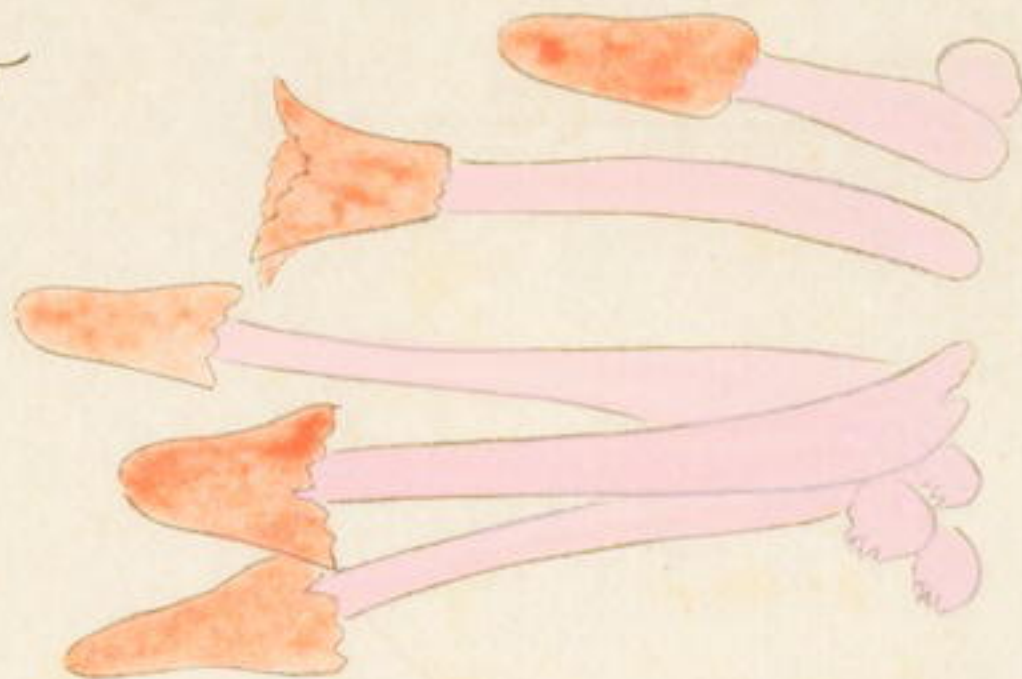


鬼蓋 附録

きんねのだいふく

きんねのふく

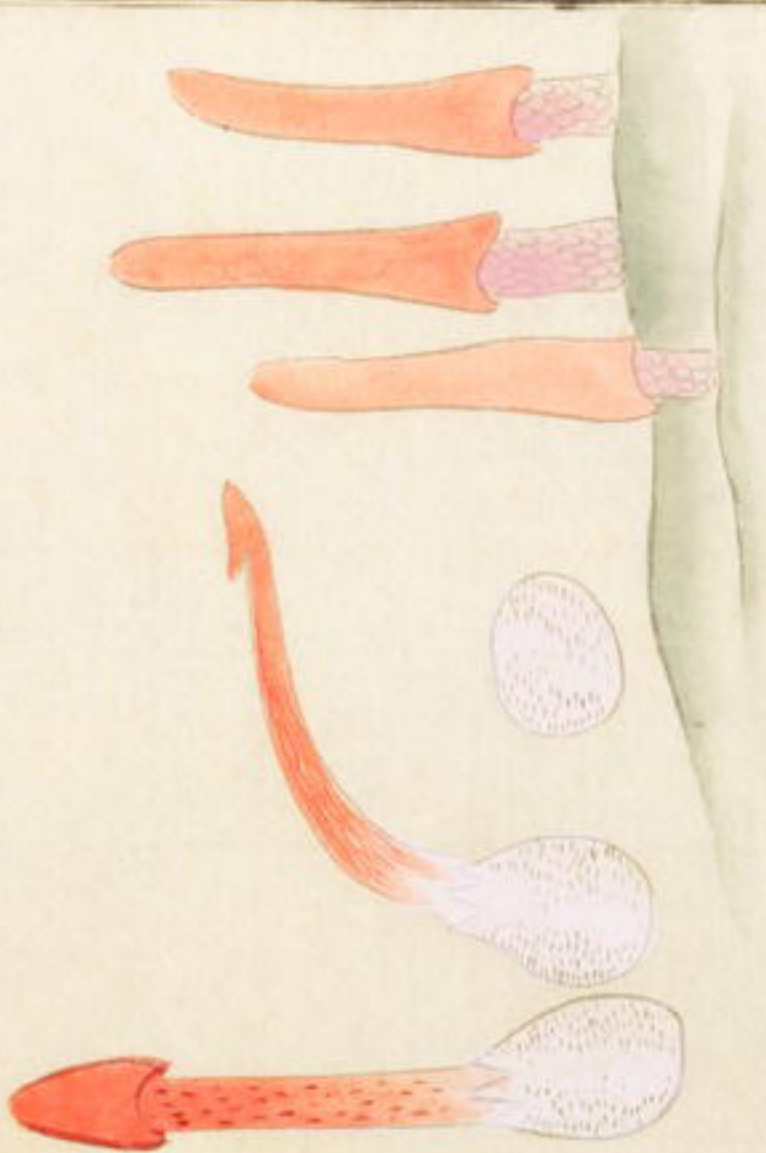
菌譜に載る圖同
書に又狗の陰生と
名づく初生と云ふ
を彈丸の如く怒ら
長くぬく其頭紅
色くも茎淡橘色
あり此亦乾生暮萎
の菌なり小兒呼て
狗溺茎と云ふなり



きんねのふく

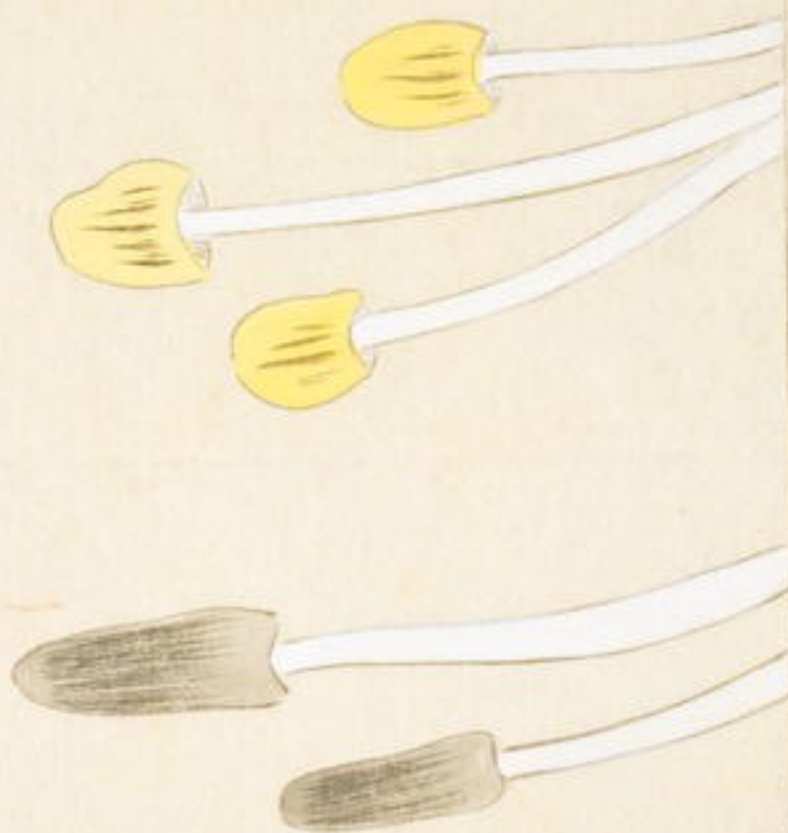
底物写生
に載る圖

きんねのふく



地 琴 附 録

一 種



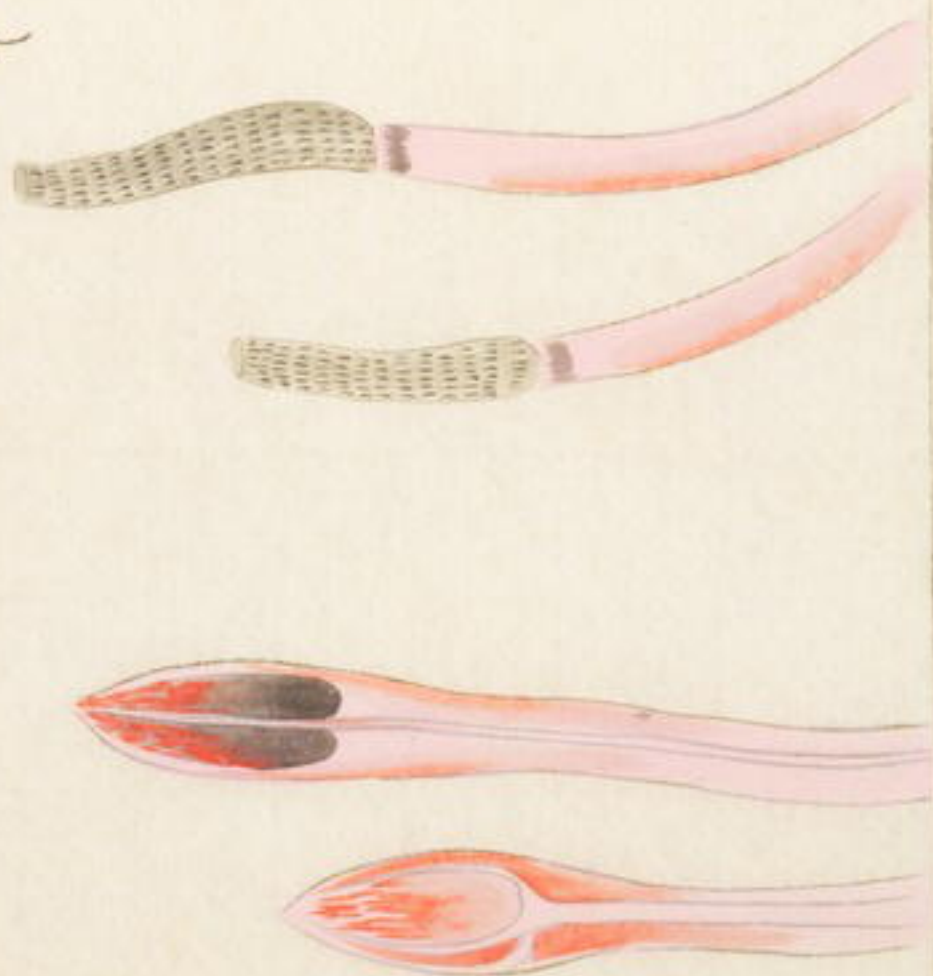
鬼 筆 附 録 まろねのゑふ

まろねのゑふ

省過に載る國菌史に夏
霖雨後樹林藪厨の処に生ひ
黒頭赤脚狀擬筆の如し柔
鬆中虚目も見ず即ち元底
粘滑微し真氣のうき

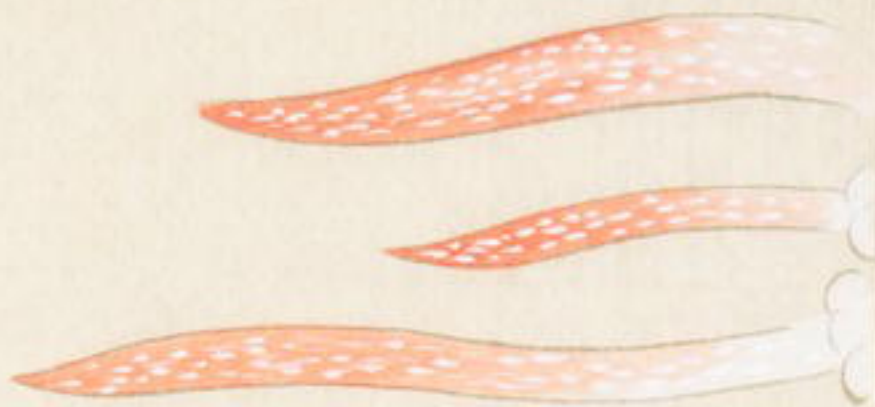
まろねのゑふ

菌史に
載る圖



まろねのみつ

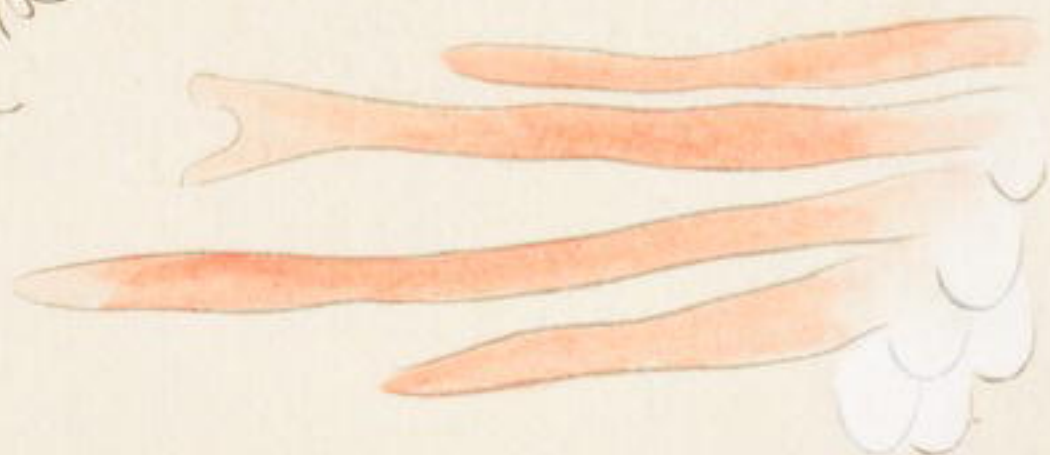
菌史
載る図



まろねのみつ

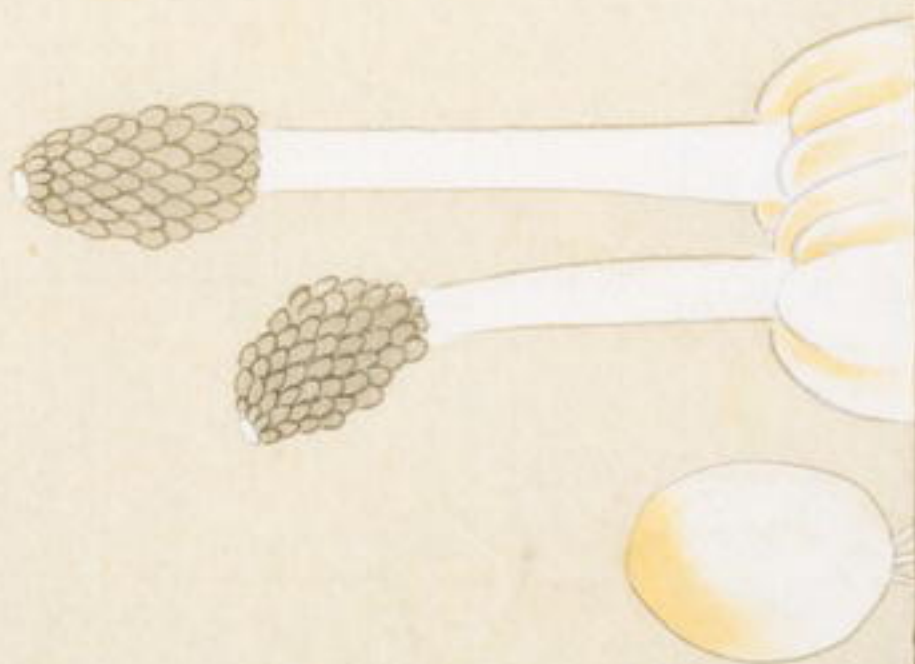
まろねのみつ

信陽菌譜に載る図
同書に初め地中へ生ず
雞卵の如く旦頃へ生
一畧ふをうらふ



まろねのみつ

有過に載る図菌史
初生に雞子の形の如く
一と剖折一茎を割頭
く龜文より一茎白色薄
即肌の云々の異種を
うらふ



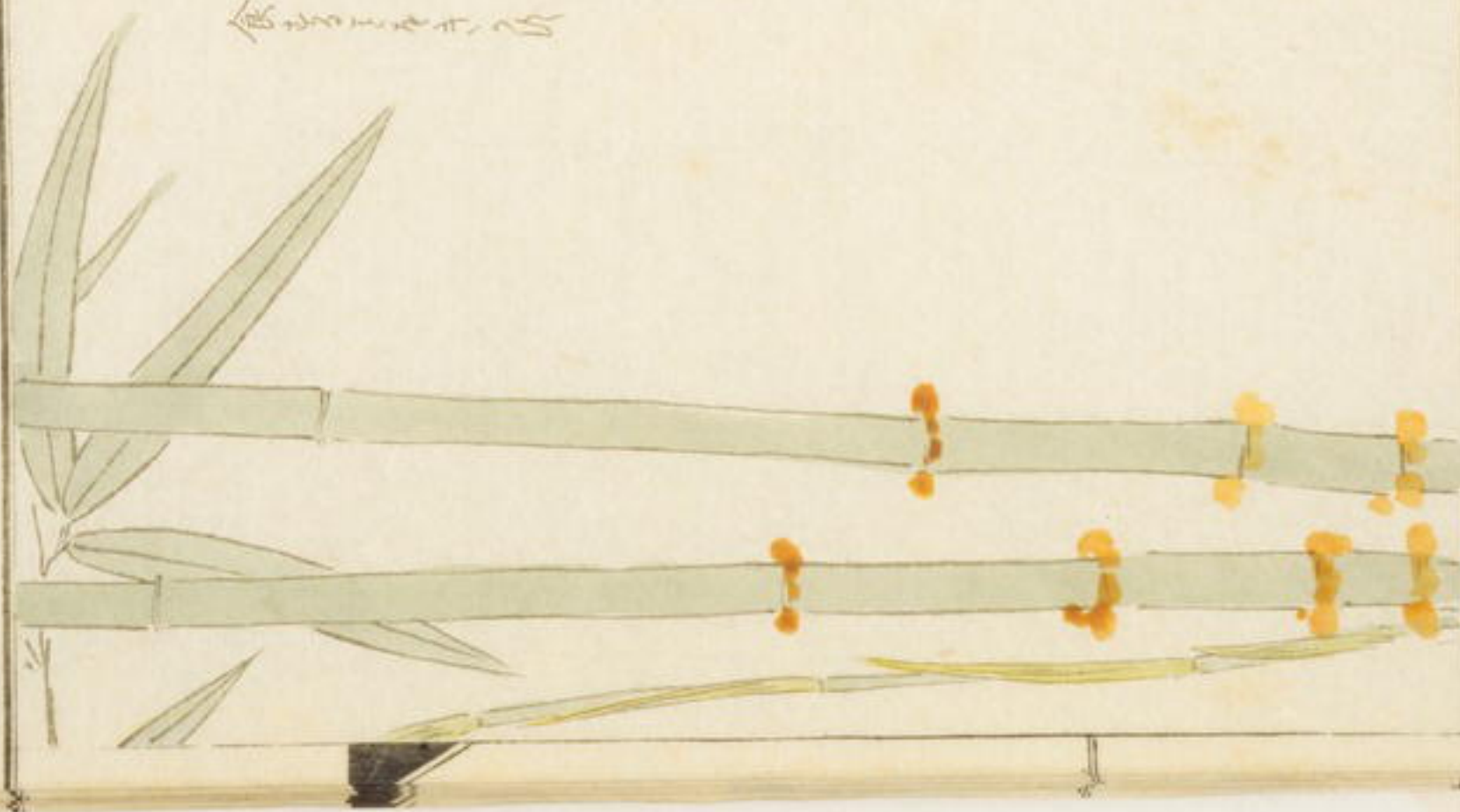
竹蓐



武州青山辺のふところの
根より生じて形状木耳又ひ
けは似て白色なり

一種

まゝくけふ四月ころ霖雨の
節節間より生じ形木耳に似
甚柔韌觸れし則落る黄赤色
食せざるをみくひ



たけのこ



菌譜に載る図同書
 竹の節に生じ硬木
 耳の如くして柔軟
 白巻紫巻の二種

たけのこ

たけのこ

たけのこ

奥州
 羽州

菌史に載る図同書
 竹の小者とも名く此菌
 多く小竹林中に生じ故名
 く質硬脚長く面灰白色
 して指白微靱鮮美香氣
 已稍乏なり又純白黄
 色微褐淡諸色者あり七八
 月多生数生至簇生もの
 けり此以下前條の形状大
 遠くとも竹林中に生じ者
 故後で載る



たこあし

菌譜に載る圖同書
 状ふしは似し竹林中
 生ひ紫白の二種に其
 紫をより味は甚佳す
 頗る竹葉の氣に白を
 より小毒に皆而後竹
 根に生ひしる



たこあし

樹木氏
 の圖



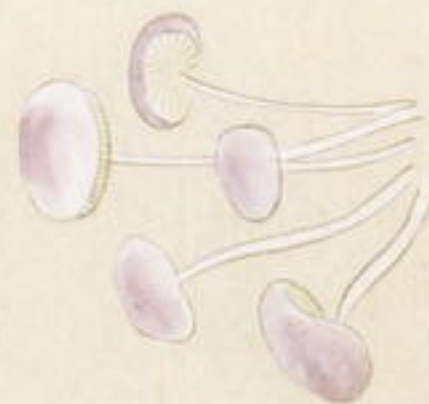
たこあし

日光菌
 譜に載
 る圖



たこあし

毛菌
 圖に載
 る圖



た〜んけ

有過
載る圖



た〜んけ

同上



た〜んけ

同上

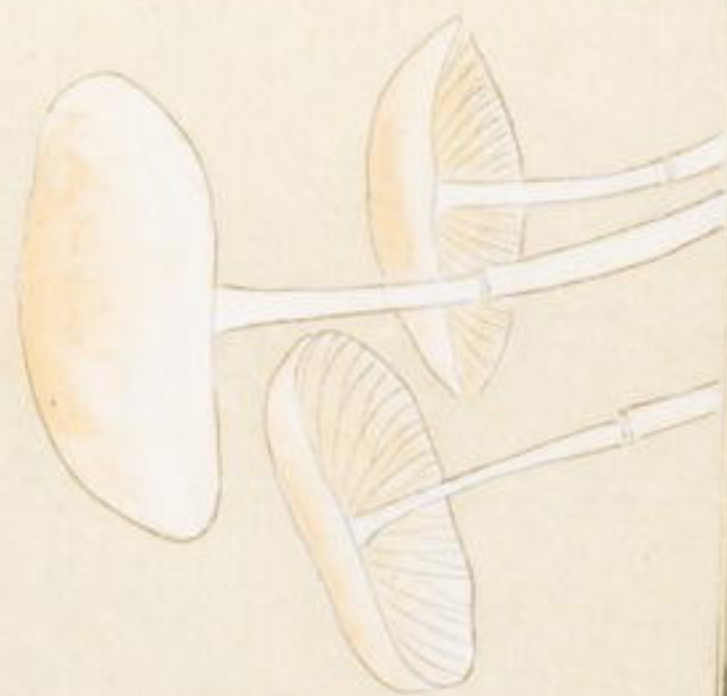


た〜んけ

菌史に載る圖

同書に常陸に

産するなり



一種

方竹の
根より
生るなり



一種

菌史に載る圖
同書に五月竹林
中に生ずる處
なり



一種

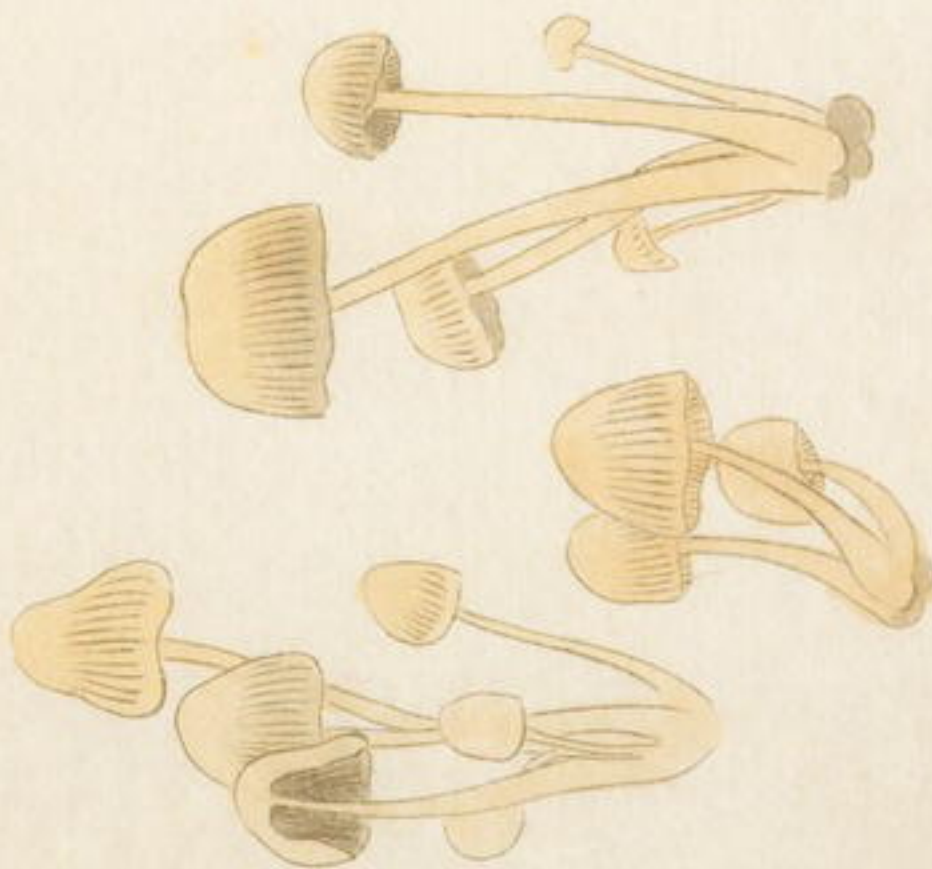
同書に載る圖
同書に辛未の夏
日後園竹叢中
生ずるなり



志いりせ 種二

こしたる

菌譜に載る圖同書に
平野及び松林中に生ずる
なり似て茎細く蓋茎
も黄褐色味は淡薄毒
あり食ふべからず



藟菌 ぶ菌 よ〜〜

看過よ載る圖

菌史よ蘆根よ生

もる処の菌之質

小く味美奥羽多

生越後高田亦有

り

かや〜

毛菌圖よ

載る圖



蜀格 附録

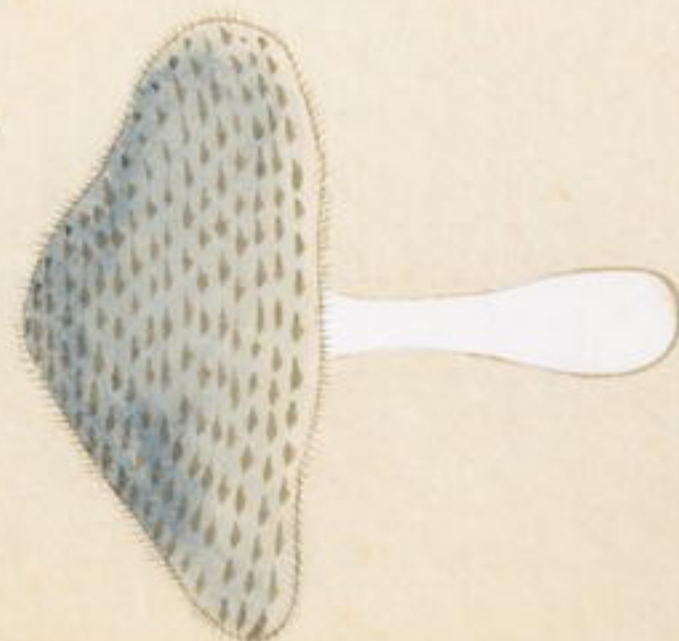
今圖よる物、食用よる者ふ〜集解の説よ合ふ共其形状
也また以て先き〜載る尚食用〜得補之

やよ〜

日光菌譜

載る圖食

もる得



ほんだけ

花園譜も載る園同書も
松茸も似て茎短く平
蓋上も軟刺は其色赤褐
大毒は人も殺すもの



つるふけの類

同書も載る園同書も
秋月人家遺傳生い蓋
上は細く二本つきの軟刺
は赭褐色菌少く淡
紅色茎もも軟刺は大
毒はくもの

地耳

をいふ

日光園譜も
載る園



石耳

菌譜に載る圖
同書に地を就く生
ひ頗る牡丹花の
如く淡綠色甚く
硬く木耳の属なり
と云ふ



石耳

石耳

菌史に載る圖同書に云ふ
は似て薄葉軟綿の如く西貢毛茸
の裡青白或微赤色を帯層々
簇立しと云ふものの形の如く味稍
きつめは似て風韻則ち遠紀人の曰
深山崖石に大雲の後日の光を遇て
即生ひと云ふ



二二二

信陽菌譜

載る図同書

信陽の音田

中の者及び

いふ



水藻類
水草類

33-60

一二